

(673)

(假
譯)

目
次

目
次

一、「フィリピン」共和國憲法.....

一頁

IMT 676

95

千九百四十三年九月四日「フィリピン」マニラ市ニ於テ
「フィリピン」獨立準備委員會ニ依リ採擇セラレタル
「フィリピン」共和國憲法

(假譯)

「フィリピン」共和國憲法

概要目次

前文 一頁

第一條 「フィリピン」共和國 二

第二條 行政部 二

第三條 立法部 五

第四條 司法部 二

第五條 彈劾 一四

第六條 市民權 一五

第七條 市民ノ義務及權利 一六

第八條 天然資源ノ保存及利用 一八

第九條 一般規定 二〇

第十條 修正 二三

第十一條 過渡的規定 二四

第十二條 特別規定 二六

前文

「フィリピン」國民ハ神助ヲ祈願シツツ且國ノ自由ナル存立ヲ維持センコトヲ欲シツツ茲ニ其ノ獨立ヲ
 布告シ且一般ノ福祉ヲ増進シ、國民ノ世襲財産ヲ保存開發シ竝ニ平和、自由及道義ニ基ク世界秩序ノ

「フィリピン」共和國憲法(一九四三年)

一

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

二

創造ニ寄與スベキ政府ヲ創立センガ爲本憲法ヲ制定ス

第一條 「フィリピン」共和國

第一節

「フィリピン」國ハ共和國ナリ本憲法ニ依リ創立セラルル政府ハ「フィリピン」共和國ト稱セラルベシ

第二節

「フィリピン」共和國ハ現在法律ニ依リ定メラレタル一切ノ國家領域ニ對シ主權ヲ行使スベシ

第二條 行政部

第一節

行政權ハ「フィリピン」共和國大統領ニ付與セラルベシ

第二節

大統領ハ法律ニ依リ定メラルベキ場所及期日ニ於テ國民議會ノ全議員ノ過半數ニ依リ選舉セラルベシ

第三節

何人ト雖モ年齢四十歳以上ニシテ選舉ノ直前少クトモ十年間「フィリピン」國ニ居住シタル「フィリピン」國ノ生來ノ市民タル者ニ非ザレバ大統領ニ選舉セラルルコトヲ得ズ

第四節

大統領ハ六年間在職スベク次期ハ再選セララルコトヲ得ズ

第五節

大統領ノ任期ハ其ノ選舉後ノ六年ノ滿了ニ次グ十二月三十日ノ正午ニ終了スベク其ノ後任者ノ任期ハ右ノ時刻ヨリ開始スベシ後任者ガ右ノ時迄ニ選舉セラレザリシカ又ハ大統領當選者ガ資格ヲ具ヘザリシトキハ退任大統領ハ其ノ後任者ガ選舉セラレ且資格ヲ具フルニ至ル迄引續キ在職スベシ大統領ノ免職又ハ其ノ死亡、辭職若ハ其ノ職權及職務ノ執行不能ノ場合ニ於テハ大統領ノ職ハ新大統領ガ殘存任期ニ對シ選舉セララルルニ至ル迄法律ノ定ムル席次ニ依ル上席大臣ニ移行スベシ後ノ場合ニ於テハ選舉ハ右免職、死亡、辭職又ハ不能ノ生ジタル後六十日以内ニ行ハルベシ

第六節

大統領ハ其ノ就任ニ先チ左ノ宣誓又ハ確言ヲ爲スベシ

「余ハ忠實ニ且良心ニ從ヒ「フィリピン」共和國大統領トシテノ余ノ職責ヲ果シ、「フィリピン」國ノ憲法ヲ保持擁護シ、其ノ法令ヲ執行シ、各人ニ對シ正義ヲ行ヒ且國家ヘノ奉公ニ盡瘁スベキコトヲ茲ニ嚴肅ニ誓フ（又ハ確言スル）モノナリ神ヨ願ハクバ照覽アレ」（確言ノ場合ニハ最後ノ句ヲ略スベシ）

第七節

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

四

大統領ハ官邸ヲ有シ且法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受クベシ右報酬ハ大統領ノ在任期間中増加セラレ又ハ減少セララルコトナカルベシ大統領ハ右期間中政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關ヨリ他ノ何等ノ給與ヲモ受クルコトナカルベシ

第八節

大統領ハ一切ノ省、部局又ハ官署、一切ノ地方政廳及行政部ノ他ノ一切ノ部門又ハ代理機關ヲ監督統轄シ且法令ガ忠實ニ執行セララルル様注意スベシ

第九節

大統領ハ「フィリピン」共和國ノ一切ノ軍隊ノ總司令官タルベク且必要アルトキハ不法行爲、侵略、暴動又ハ叛亂ヲ防止シ又ハ鎮壓スル爲右軍隊ヲ出動セシムルコトヲ得侵略、暴動若ハ叛亂又ハ其ノ危険ノ急迫ノ場合或ハ公共ノ安全上必要ナル場合ニハ大統領ハ人身保護令ノ特權ヲ停止シ又ハ「フィリピン」國若ハ其ノ何レノ部分ニモ戒嚴令ヲ布クコトヲ得

第十節

大統領ハ大臣及次官ヲ任命シ且大使、公使及領事、部局及官署ノ長、大佐ノ階級以上ノ陸軍士官、大佐又ハ中佐ノ階級以上ノ海軍及空軍士官、州知事、市町村長竝ニ任命ニ關シ法律ニ別段ノ規定ナキ他ノ一切ノ官吏ヲ内閣ノ諮問ヲ經テ任命スベシ

第十一節

國策ニ關シ大統領ノ諮問ニ應ズル爲ノ參議會ヲ設クベシ參議會ハ國家ニ對シ顯著ナル功績アリタル市民中ヨリ大統領ガ任命スベキ二十名ヲ超エザル議員ヲ以テ組織セラルベシ

第十二節

大統領ハ國民議會ノ全議員ノ三分ノ二ノ同意ヲ得ルトキハ宣戰及講和ヲ爲スノ權能ヲ有スベク又全議員ノ過半数ノ同意ヲ得ルトキハ條約ヲ締結スルノ權能ヲ有スベシ大統領ハ「フィリピン」共和國ニ適法ニ派遣セラレタル大使及公使ヲ接受スベシ

第十三節

大統領ハ其ノ課スルヲ適當ナリト認ムル條件及制限ノ下ニ、一切ノ犯罪ニ付有罪判決ノ後ニ於テ執行猶豫、減刑及赦免ヲ許可シ竝ニ罰金及沒收ヲ免除スルノ權能ヲ有スベシ大統領ハ國民議會ノ同意ヲ得テ大赦ヲ行フノ權能ヲ有スベシ

第十四節

大統領ハ國ノ狀況ニ關シ時時國民議會ニ報告ヲ爲シ其ノ必要且便宜ナリト認ムル方策ヲ提示シテ議會ノ審議ヲ勸告スベシ

第三條 立法部

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

第一節

立法權ハ國民議會ニ付與セラルベシ

第二節

國民議會ハ職權ニ依ル議員トシテノ州知事及市長竝ニ各州及各特別市ヨリ三年毎ニ一名ヅツ選舉セラ
ルベキ代表者ヲ以テ組織セラルベシ議員ノ選舉ノ期日及方法竝ニ闕員ノ補充方法ハ法律ニ依リ定メラ
ルベシ右法律ハ大東亞戰爭中ハ變更セラレ又ハ修正セラルルコトナカルベシ

第三節

何人ト雖モ「フィリピン」國ノ市民タルコト五年ニ及ビ且年齡三十歳以上タルニ非ザレバ國民議會議員
ニ選舉セラルルコトナカルベシ

第四節

- (一) 國民議會ハ法律ニ依リ定メラルベキ期間ニ於テ毎年一回通常會期ヲ開催スベシ但シ日曜日ヲ除キ
六十日ヲ超エ繼續スルコトナカルベシ國民議會ハ又一般法令ヲ又ハ大統領ガ指定スル問題ノミヲ審
議スル爲大統領ニ依リ其ノ定ムル期間内特別會期トシテ招集セラルルコトヲ得
- (二) 國民議會ハ其ノ議長、一名ノ書記官、一名ノ守衛其ノ他必要ナル職員ヲ選任スベシ全議員ノ過半
數ハ事務執行ノ定足數ヲ構成ス但シ議員數ガ右定足數ニ滿タザルトキハ連日議事ヲ延期スルコトヲ

得べく又國民議會ノ定ムル方法及罰則ヲ以テ闕席議員ノ出席ヲ強要スルコトヲ得

(三) 國民議會ハ其ノ選舉セラレタル議員ノ選舉、報告及資格ニ關シ唯一ノ判定者タルべく且其ノ議事規則ヲ定メ、秩序ヲ紊ス行爲ニ對シ議員ヲ罰シ及三分ノ二ノ同意ヲ得ルトキハ議員ヲ除名スルコトヲ得國民議會ハ其ノ議事日誌ヲ保存スべく且秘密ヲ要スト認ムル部分ヲ除クノ外時時之ヲ公表スベシ如何ナル問題ニ對スル贊成投票者及不贊成投票者モ出席議員ノ五分ノ一ノ要求アル場合ニハ之ヲ議事日誌ニ記入スベシ

第五節

國民議會ノ議長及議員ハ法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受クべく國民議會ノ會議ニ出席ノ際ノ各自ノ州又ハ都市ヨリノ往復旅費ハ含マレザルモノトス國民議會ハ其ノ議長及議員ノ報酬ヲ其ノ任期中ニ於テ増加スルノ權能ヲ有セザルベシ

第六節

國民議會ノ議員ハ國民議會ノ會議ニ出席中及國民議會ヘノ往復ノ途次ニ於テ逮捕セラレザルノ特權ヲ有ス但シ法律ニ依リ定メラルル刑ガ死刑又ハ十二年ヲ超ユル禁錮タル犯罰ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ又議會ニ於ケル如何ナル演說又ハ討議ニ付テモ議會以外ノ場所ニ於テ質問セララルコトナカルベシ

第七節

(一) 大統領ハ國民議會ノ各通常會期ノ開會期日ヨリ十日以内ニ一般歳出豫算法案ノ基礎タルベキ收支豫算書ヲ提出スベシ

(二) 會計年度末ニ際シ次年度ノ政府維持ニ必要ナル歳出豫算ガ作成セラレ居ラザルトキハ其ノ前年度ノ歳出豫算法案中ニ於テ振當テラレタル各金額ハ大統領ガ可能ナリト判斷スル限リ一般歳出豫算法案ガ可決セララルニ至ル迄右法案中ニ特定セラレタル各目的及用途ニ對シ再ビ振當テラレタルモノト看做サルベシ

(三) 一般歳出豫算法案中ノ或特定ノ歳出豫算ニ特ニ關係アルモノニ非ザレバ如何ナル規定又ハ法令モ右法案中ニ包含セララルコトナカルベシ又右ノ規定又ハ法令ハ其ノ適用ニ付テハ右歳出豫算ノミニ局限セララルベシ

第八節

各大臣ハ其ノ發意又ハ國民議會ノ要求ニ基キ國民議會ニ出席シテ自省ノ所管事項ニ關シ意見ヲ開陳スルコトヲ得但シ公益上右意見ヲ開陳セザルコトヲ必要トシ且大統領ニ於テ其ノ旨ヲ書面ニ依リ陳ベタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九節

- (一) 國民議會ヲ通過セル法案ハ大統領ニ依リ裁可セラルルニ非ザレバ法律ト爲ルコトナカルベシ大統領ハ右法案ヲ裁可スル場合ニハ之ニ署名スベク又裁可セザル場合ニハ其ノ反對理由ヲ具シテ之ヲ國民議會ニ返付スベシ國民議會ハ其ノ議事日誌中ニ右反對理由ヲ詳細ニ記載スベク又右法案ヲ再審議シ全議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ之ヲ再可決スルコトヲ得右ノ如キ一切ノ場合ニ於テハ國民議會ノ表決ハ贊否ノ投票ニ依リテ決セラルベク又贊成又ハ反對ノ投票ヲ爲セル議員ノ氏名ハ議事日誌ニ記載セラルベシ大統領ガ法案ヲ再ビ否認スルトキハ國民議會ハ同一會期中ニ於テハ右法案ヲ再審議シ之ヲ再可決スルコトヲ得ズ法案ガ大統領ニ提出セラレタル後二十日以内(日曜日ヲ除ク)ニ大統領ハ本憲法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ返付セザル場合ニハ右法案ハ大統領ガ之ニ署名シタルト同様ニ法律ト爲ルベシ但シ國民議會ガ閉會ニ依リ右法案ノ返付ヲ妨ゲタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ右法案ハ議會ノ閉會後四十日以内ニ大統領ニ依リ拒否セラレザル限リ法律ト爲ルベシ
- (二) 大統領ハ歳出豫算、歳入又ハ關稅ニ關スル法案中ノ何レノ特定ノ一又ハ二以上ノ項目ヲモ拒否スルノ權能ヲ有スベシ但シ右拒否ハ大統領ノ反對セザル一又ハ二以上ノ項目ニハ影響ヲ及ボスコトナカルベシ歳出豫算法案中ノ規定ガ該法案ノ一又ハ二以上ノ項目ニ影響ヲ及ボス場合ニハ大統領ハ右規定ノ關スル特定ノ一又ハ二以上ノ項目ヲ同時ニ拒否スルコトナクシテハ右規定ヲ拒否スルコトヲ得ズ

第十節

- (一) 法律トシテ制定セラルベキ法案ハ一箇ヲ超ユル主題ヲ包含スルコトナカルベク該主題ハ右法案ノ標題ニ於テ表示セラルベシ
- (二) 法案ハ其ノ最終ノ形式ニ於ケル謄本ガ國民議會ノ該法案可決ノ少クトモ三曆日前ニ議員ニ提供セラルルニ非ザレバ可決セラレ又ハ法律ト爲ルコトナカルベシ但シ大統領ニ於テ右法案ヲ即時法律トシテ制定スルノ要アルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ法案ノ最終議會終了スルトキハ其ノ修正ハ許サレザルベク又右法案ヲ最終的ニ可決スベキカ否カノ問題ハ最終議會後直ニ付議セラレ贊成投票者又ハ不贊成投票者ハ議事日誌ニ記載セラルベシ

第十一節

- (一) 特別ノ目的ノ爲賦課セラレタル租税ニ依ル一切ノ徵收金ハ特別基金トシテ取扱ハレ右目的ニノミ支出セラルベシ特別基金ヲ設定シタル目的ガ達成セラレ又ハ拋棄セラレタル場合ニ殘額アルトキハ該殘額ハ政府ノ一般基金ニ移サルベシ
- (二) 如何ナル金額ト雖モ法律ニ依リ作成セラレタル歳出豫算ニ依ル場合ヲ除クノ外國庫ヨリ支出セラルコトナカルベシ
- (三) 公金又ハ公ノ財産ハ宗派、教會、分派、宗派ノ施設又ハ宗教的組織ノ使用、利益又ハ維持ノ爲或

ハ僧侶、傳道師、牧師又ハ他ノ宗教的教師若ハ高位僧トシテノ教師若ハ高位僧ノ使用、利益又ハ維持ノ爲ニ直接ニモ間接ニモ振當テラレ、流用セラレ又ハ使用セラルルコトナカルベシ但シ右ノ僧侶、傳道師、牧師又ハ高位僧ガ軍隊又ハ刑事施設、孤兒院若ハ癩病保養院ニ配屬セシメラレ居ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二節

(一) 課税規則ハ一律タルベシ

(二) 國民議會ハ其ノ定ムルコトアルベキ制限ニ從フノ條件ノ下ニ大統領ニ對シ關稅率、輸出入ノ割當、噸稅及波止場使用料ヲ特定ノ範圍内ニ於テ決定スルノ權限ヲ法律ヲ以テ付與スルコトヲ得

(三) 墓地、教會及教會附屬ノ牧師住宅又ハ修道院竝ニ專ラ宗教的、慈善的又ハ教育的目的ニ使用セララルル一切ノ土地、建築物及其ノ改修ハ租稅ヲ免除セラルベシ

第十三節

戰時又ハ他ノ國家的緊急時ニ於テハ國民議會ハ宣言セラレタル國策ノ遂行ノ爲規則及規程ヲ公布スルノ權限ヲ一定ノ期間中且議會ノ定ムル制限ニ從フノ條件ノ下ニ法律ヲ以テ大統領ニ付與スルコトヲ得

第十四節

國民議會ノ閉會中ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ大統領ハ規則及命令ヲ公布スルコトヲ得右規則及命令

「フィリピン」共和國憲法(一九四三年)

ハ國民議會ノ次回ノ通常會期ノ終了ニ先チ決議ニ依リ否認セラルル迄法律トシテノ效力ヲ有スベシ

第四條 司法部

第一節

司法權ハ大審院及法律ニ依リ設置セラルルコトアルベキ下級裁判所ニ付與セラルベシ

第二節

國民議會ハ各種ノ裁判所ノ管轄權ヲ明定シ、規定シ及割當ツルノ權能ヲ有スベシ但シ大使、公使及領事ニ關聯セル事件ニ對スル第一審管轄權ヲ大審院ヨリ奪フコトヲ得ザルベク又法律、命令、行政命令又ハ規則ノ合憲性ガ問題ト爲リ或ハ裁判所ノ管轄權ガ論争點ト爲リ又ハ誤謬若ハ法律問題ノミガ含まルル一切ノ事件ニ於ケル下級裁判所ノ最終判決及命令ヲ法律又ハ裁判所規則ノ定ムル所ニ從ヒ控訴、訴訟書類移送命令又ハ再審命令ニ基キ再審シ、變更シ、破棄シ、修正シ又ハ確認スルノ管轄權ヲ大審院ヨリ奪フコトヲ得ズ

第三節

法律ニ別段ノ規定ナキ限り大審院ハ大審院長及六名ノ陪席判事ヲ以テ組織セラルベシ

第四節

大審院判事ハ内閣ノ諮問ヲ經テ大統領ニ依リ任命セラルベシ下級裁判所ノ一切ノ判事ハ大審院ノ諮問

ヲ經テ大統領ニ依リ任命セラルベシ

第五節

何人ト雖モ年齢四十歳以上ニシテ少クトモ十年以來「フィリピン」國ニ於テ記録裁判所ノ判事タリシカ
又ハ法律事務ニ従事シ來レル「フィリピン」國市民タル者ニ非ザレバ大審院判事ニ任命セラルルコトヲ
得ズ

第六節

國民議會ハ下級裁判所ノ判事ノ資格ヲ定ムベシ但シ何人ト雖モ「フィリピン」國ニ於テ法律事務ニ従事
スルコトヲ許サレタル「フィリピン」國市民タル者ニ非ザレバ右裁判所ノ判事ニ任命セラルルコトヲ得
ズ

第七節

大審院判事及下級裁判所ノ判事ハ其ノ職務ヲ遂行シ能ハザルニ至ル迄ハ其ノ行狀善良ナル限り其ノ職
ヲ保持スベシ右判事ハ法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受クベク該報酬ハ政府ノ一切ノ官吏及雇傭人ノ俸
給ノ一般的改正ノ場合ヲ除キ其ノ在職中減額セラルルコトヲ得ズ

第八節

判決ヲ求ムル爲大審院ニ付託セラレタル事件ニ關スル大審院ノ結論ハ大審院ノ意見ヲ記載スル爲右事

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

「フィリピン」共和國憲法(一九四三年)

一四

件ガ一名ノ判事ニ割當テラルルニ先チ合議ノ上定メラルベシ決定ニ不同意ナル判事ハ其ノ不同意ノ理由ヲ陳述スベシ

第九節

如何ナル法律又ハ行政命令、命令若ハ規則ト雖モ大審院判事ノ全員一致ノ表決ナクシテハ憲法違反ト宣告セラルルコトヲ得ズ

第十節

記録裁判所ハ判決ノ根據タル事實及法律ヲ判決中ニ明瞭ニ表示スルニ非ザレバ如何ナル判決ヲモ下スコトナカルベシ

第十一節

大審院ハ一切ノ裁判所ニ於ケル辯護、裁判手續及訴訟手續竝ニ法律事務從事ノ許可ニ關スル規則ヲ公布スルノ權能ヲ有スベシ右規則ハ同一階級ノ一切ノ裁判所ニ對シテハ一律タルベク且右裁判所ノ本質的權利ヲ縮少シ、増加シ又ハ修正スルコトナカルベシ辯護、裁判手續及訴訟手續ニ關スル一切ノ現行法律ハ大審院ニ依リ變更セラレ又ハ修正セラルルコトアルベシ

第五條 彈劾

第一節

大統領及大審院判事ハ罰セラルベキ憲法違反、叛逆、贈收賄又ハ他ノ重大犯罪ニ對スル彈劾及右ニ關スル有罪判決ニ因リ免職セラルベシ

第二節

國民議會ハ其ノ議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ彈劾ノ權能ヲ專有スベシ

第三節

大審院ハ一切ノ彈劾ヲ審理スルノ權能ヲ享有スベシ何人ト雖モ大審院ノ全判事ノ四分ノ三ノ同意アルニ非ザレバ有罪ノ判決ヲ受クルコトナカルベシ

第四節

彈劾事件ノ判決ハ免職及「フィリピン」共和國ノ政府ノ下ニ於テ名譽、信用又ハ利得ヲ伴フ職ニ就キ且之ヲ享有スルノ資格ノ剝奪以上ニ及ブコトナカルベシ但シ有罪ノ判決ヲ受ケタル當事者ハ右ニ拘ラズ法律ニ從ヒ訴追セラレ、審理セラレ且罰セラルベシ

第六條 市民權

第一節

左ノ者ヲ「フィリピン」國民トス

(一) 本憲法採擇ノ時ニ「フィリピン」國民タル者及其ノ子孫

「フィリピン」共和國憲法(一九四三年)

(二) 法律ニ從ヒ歸化セル者

第二節

「フィリピン」國市民權ハ法律ノ定ムル方法ニ依リ、之ヲ喪失シ又ハ再取得スルコトヲ得

第七條 市民ノ義務及權利

第一節

法律ノ要求スル文武ノ役務ニ服シ、租稅及公課ヲ支拂ヒ並ニ有用ナル生業、業務又ハ職業ニ從事スルコトハ一切ノ市民ノ義務ナリトス

第二節

何人ト雖モ正當ナル法律上ノ手續ヲ經ズシテ生命、自由又ハ財產ヲ剝奪セララルルコトナカルベク又何人ト雖モ法律ノ平等ナル保護ヲ拒否セララルルコトナカルベシ

第三節

宗教ノ公認ニ關スル又ハ宗教ノ自由ナル信奉ヲ禁止スル法律ハ制定セララルルコトナカルベク又市民權又ハ政治的權利ノ行使ニ付テハ何等ノ宗教上ノ宣誓ヲモ要スルコトナカルベシ

第四節

契約上ノ義務ヲ毀損スル法律ハ可決セララルルコトナカルベシ

第五節

遡及法ハ制定セララルコトナカルベシ

第六節

何人ト雖モ負債ノ故ヲ以テ投獄セララルコトナカルベシ

第七節

意思ニ反スル服役ハ如何ナル形式ノモノタルヲ問ハズ存在スルコトナカルベシ但シ當事者ガ適法ニ有罪ト判決セラレタル犯罪ニ對スル刑罰トシテノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八節

人身保護令ノ特權ハ停止セララルコトナカルベシ但シ侵略、暴動若ハ叛亂ノ場合又ハ公安上必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九節

私有財産ハ公正ナル補償ナクシテハ公共ノ用ニ供スル爲收用セララルコトナカルベシ

第十節

何人ト雖モ貧窮ヲ理由トシテ裁判所又ハ行政裁判所ニ於ケル自由ノ訴訟ヲ拒マルルコトナカルベシ

第十一節

「フィリピン」共和國憲法(一九四三年)

平和、道德、衛生、安全又ハ公安ノ爲法律ニ依リ課セラルル制限ニ從フニ於テハ

- (一) 不當ノ搜索及差押ニ對シ安全ナルノ權利ハ侵サルルコトナカルベシ
- (二) 通信及信書ノ秘密ハ侵サルルコトナカルベシ
- (三) 法律ニ違反セザル目的ノ爲組合又ハ結社ヲ組織スルノ權利ハ侵サルルコトナカルベシ
- (四) 宗教上ノ表白及禮拜ノ差別及優先ナキ自由ナル享有及實行ハ制限セラルルコトナカルベシ
- (五) 法律ノ定ムル範圍内ニ於ケル居住及住居變更ノ自由ハ毀損セラルルコトナカルベシ
- (六) 言論若ハ出版ノ自由又ハ平穩ニ集合シテ不法ヲ匡救スルコトヲ政府ニ請願スルノ國民ノ權利ハ剝奪セラルルコトナカルベシ

第八條 天然資源ノ保存及利用

第一節

「フィリピン」國ノ公有地ノ一切ノ農地、採木地及採鑛地、水、鑛物、石炭、石油及他ノ鑛油、潜在「エネルギー」ノ一切ノ源泉竝ニ他ノ天然資源ハ國ニ屬シ其ノ處分、採取、開發又ハ利用ハ「フィリピン」國市民又ハ資本ノ少クトモ六十「パーセント」ガ「フィリピン」國市民ニ依リ所有セラルル會社若ハ組合ニ局限セラルベシ但シ本憲法ニ基ク政府ノ創立ノ時ニ現存スル一切ノ權利、許可、借地權又ハ特惠ハ此ノ限ニ在ラズ天然資源ハ公有農地ヲ除クノ外讓渡セラルルコトナカルベク又何レノ天然資源ノ採取、

開發又ハ利用ニ關スル免許、特許又ハ租借モ二十五年ヲ超ユル期間ニ付許可セラルルコトナカルベシ
 右許可ハ更ニ二十五年ニ付更新セラルルコトヲ得但シ灌溉、給水、漁業又ハ水力開發以外ノ工業的用
 途ニ關スル水利權ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ有益ナル使用ヲ以テ許可ノ標準及限度
 トス

第二節

如何ナル私立會社又ハ組合ト雖モ千二十四ヘクタールヲ超ユル公有農地ヲ取得シ、租借シ又ハ保有ス
 ルコトヲ得ズ又如何ナル個人ト雖モ右土地ヲ購入ニ依リ百四十四ヘクタール、租借ニ依リ千二十四ヘ
 クタール又ハ開墾地特別分讓ニ依リ二十四ヘクタールヲ超エ取得スルコトヲ得ズ二千ヘクタールヲ超
 エザル牧畜ニ適スル土地ハ之ヲ個人、私立會社又ハ組合ニ賃貸スルコトヲ得

第三節

國民議會ハ個人、會社又ハ組合ガ取得保有シ得ル私有農地ノ面積ヲ法律ヲ以テ決定スルコトヲ得但シ
 右法律ノ制定前ニ存在スル權利ハ之ニ服従スベキモノトス

第四節

國民議會ハ小區劃ニ分割セラレ且實費ヲ以テ個人ニ讓渡セラルベキ土地ヲ公正ナル補償ヲ支拂ヒテ收
 用スルノ權限ヲ付與スルコトヲ得

「フ、リ、セン」共和國憲法（一九四三年）

第五節

如何ナル私有農地ト雖モ「フィリピン」國ニ於テ公有地ニ屬スル土地ヲ取得シ又ハ保有スルノ資格ヲ有スル個人、會社若ハ組合又ハ無遺言相續ノ場合ニ法律ニ依リ相續ノ權利ヲ付與セララルル者ニ對スル場合ヲ除クノ外移轉セラレ又ハ讓渡セララルコトナカルベシ

第九條 一般規定

第一節

「フィリピン」共和國ノ國旗ハ「フィリピン」國民ニ依リ神聖視セラレ且尊敬セラレ居ル一箇ノ太陽及三箇ノ星ヲ配セル赤色、白色及青色トス

第二節

政府ハ國語トシテ「タガログ」語ノ發達及普及ニ資スル措置ヲ執ルベシ

第三節

政府、其ノ部局及代理機關竝ニ法律ニ依リ規定セララルル者又ハ施設ノ歲入、受入金、基金ヨリノ支出及財産ニ關スル一切ノ勘定ヲ審査シ、検査シ及決濟スベキ會計検査院ヲ設置スベシ

第四節

政府ノ一切ノ部門及部局ヲ含ム民政廳ハ法律ヲ以テ設置セララルベシ民政廳ニ於ケル任命ハ政策ノ決定

ニ關スルモノ、本來祕密ヲ要スルモノ又ハ性質上高度ニ専門的ナルモノヲ除クノ外能ク限リ競争試験ニ依リ決定セラルベキ成績及適應性ノミニ從ヒ行ハルベシ

第五節

一切ノ官吏及軍人ハ憲法ヲ支持シ且之ヲ擁護スル旨ノ宣誓ヲ爲スベシ

第六節

官吏又ハ雇傭人ハ法律ニ依リ特ニ許サレタルニ非ザレバ追加又ハ二重ノ俸給ヲ受クルコトナカルベシ

第七節

官吏及雇傭人ハ其ノ在職中如何ナル職業ニモ從事スルコトナカルベク又其ノ職務ノ執行ニ依リ何等カノ影響ヲ受クルコトアルベキ私企業ノ經營又ハ管理ニ直接又ハ間接ニ關與シ或ハ政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關トノ契約ニ直接又ハ間接ニ財的利害關係ヲ有スルコトナカルベシ

第八節

一切ノ國民ノ福祉及經濟的安定ヲ確保スル爲ノ社會正義ノ助長ハ國ノ關心事タルベシ

第九節

國ハ科學上ノ研究及發明ヲ助長スベシ美術及文藝ハ國ノ保護ヲ受クベシ著作物及發明品ニ對スル獨占權ハ一定ノ期間内著作及發明者ニ對シ保障セラルベシ

「フイリピン」共和國憲法(一九四三年)

第十節

一切ノ教育機關ハ國ノ監督及統制ノ下ニ置カルベシ政府ハ完全且適當ナル國民教育制度ヲ創設維持シ且少クトモ無料ノ公衆初等教育及成年市民ニ對スル市民訓練ヲ施スベシ一切ノ學校、專門學校及大學ハ德性、個人的及團體的紀律、市民的良心並ニ職業的熟練ヲ啓發シ社會的能率ヲ確保スルコト並ニ市民ノ義務ヲ教フルコトヲ目的トスベシ選擇的ナル宗教教育ハ現在法令ニ依リ許サル如ク公立學校ニ於テ維持セラルベシ國ハ特ニ才能アル市民ノ爲ニ美術、科學及文藝ニ關スル獎學金制度ヲ設クベシ

第十一節

國ハ勞働者特ニ勞働ニ從事スル女子及未成年者ニ對シ保護ヲ與フベク又地主ト小作人トノ間並ニ產業及農業ニ於ケル勞資間ノ關係ヲ調整スベシ國ハ強制調停ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得

第十二節

國ハ國民ノ福祉又ハ國防ノ爲產業並ニ運輸及通信ノ機關ヲ創設經營シ又政府ニ依リ經營セララル爲公正ナル補償ヲ支拂ヒテ公益事業及他ノ私企業ヲ公有ニ移スコトヲ得

第十三節

公益事業ノ經營ニ關スル如何ナル特許、免許又ハ他ノ如何ナル形式ノ許可ト雖モ「フィリピン」國市民

又ハ「フリビシ」國ノ法律ニ基キ組織セラレタル會社若ハ他ノ團體ニシテ其ノ資本ノ六十「パーセン」ト「フリビシ」國市民ニ依リ保有セララルモノニ對スル場合ヲ除クノ外付與セララルコトナカルベク又右ノ特許、免許又ハ許可ハ性質上獨占タルコト又ハ五十年ヲ超ユル期間ニ對スルモノタルコトナカルベシ如何ナル特許又ハ權利ト雖モ公益上必要アル場合ニハ國民議會ニ依リ修正セラレ、變更セラレ又ハ取消サルルコトアルベシトノ條件ノ下ニ於テニ非ザレバ如何ナル個人、商社又ハ會社ニ對シテモ許與セララルコトナカルベシ

第十四節

國民議會ハ一般的法律ヲ以テスル場合ヲ除クノ外私立會社ノ設立、組織又ハ取締ニ關シ規定ヲ設クルコトナカルベシ但シ右會社ガ政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關ニ依リ所有セラレ又ハ管理セララル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 修正

第一節

國民議會ハ其ノ全議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ本憲法ニ對スル修正ヲ提議スルコトヲ得但シ右修正ハ之ガ爲ニ且法律ニ依リ定メラルベキ期日ニ及條件ノ下ニ特ニ招集セラレタル人民投票又ハ會議ニ於テ國民ニ依リ承認セララルニ非ザレバ本憲法ノ一部トシテ效力ヲ有スルコトナカルベシ

「フリビシ」共和國憲法（一九四三年）

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

第十一條 過渡的規定

第一節

本憲法ハ承認ノ目的ノ爲特ニ招集セラレタル人民投票又ハ會議ニ於テ國民ニ依リ承認セララルベシ右人民投票又ハ會議ノ開催方法ハ法律ニ依リ定メラルベシ

第二節

第一回國民議會ハ法律ノ定ムル場所及期日ニ於テ招集セラレ其ノ成立後直ニ「フィリピン」共和國大統領ヲ選舉スベシ

第三節

「フィリピン」行政委員會ノ現在ノ行政各部ハ國民議會ガ法律ニ依リ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄共和國ノ各省トシテ存續スベシ

第四節

「フィリピン」ノ一切ノ法律ハ共和國ノ創立ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ爾後右法律ハ本憲法ニ牴觸セザル限ニ於テハ國民議會ニ依リ修正セラレ、改正セラレ、變更セラレ又ハ廢棄セララルニ至ル迄引續キ有效タルベク又右法律中ニ於テ「フィリピン」又ハ「フィリピン」行政委員會ノ政府又ハ官吏ト稱スルハ適用シ得ル限ニ於テ共和國ノ下ニ於ケル政府又ハ右官吏ト稱スル官吏ヲ指スモノト解セララルベ

第五節

本憲法採擇ノ際ニ現存スル一切ノ裁判所ハ本憲法ノ規定ニ牴觸セザル限ニ於テハ本憲法ニ從ヒ法律ニ依リ別段ノ規定ガ設ケラルルニ至ル迄存續シ其ノ管轄權ヲ行使スベシ但シ右裁判所ニ繫屬スル一切ノ民事及刑事ノ事件ハ當該時ニ實施中ノ法律ニ基キ審理セラレ、裁判セラレ且判決セラルベシ

第六節

「フリビン」國行政委員會ノ下ニ於ケル政府ノ一切ノ官吏及雇傭人ハ國民議會ガ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄引續キ在職スベシ但シ本憲法ニ依リ任命權ガ大統領ニ付與セラレタル一切ノ官吏ハ其ノ後任者ノ任命及資格具備ト共ニ各自ノ職ヲ退クベシ

第七節

本憲法ニ規定セラルル禁止及制限ニ拘ラズ「フリビン」共和國大統領ハ天然資源ノ利用及公益事業ノ經營ニ關シ外國ト協定ヲ締結スルコトヲ得右協定ハ大東亞戰爭ノ終了ト共ニ失効スベシ

第八節

大東亞戰爭ノ勃發以後ニ於テ自然人、團體又ハ會社ニ依リ取得セラレタル一切ノ財産權及特權ハ右戰爭ノ終了ト共ニ調整セラレ且解決セラルベシ

「フリビン」共和國憲法(一九四三年)

第九節

本憲法ノ規定ハ本條ニ掲ゲラルルモノ竝ニ本憲法ニ基キ選舉セラルベキ官吏ノ選舉及資格ニ關スルモノヲ除ク外「フィリピン」共和國ノ創立ニ至ル迄效力ヲ生ゼザルベシ

第十二條 特別規定

第一節

國民議會ハ大東亞戰爭ノ終了後一年以内ニ憲法會議ヘノ代表者ノ普通選舉ニ依ル選舉ニ關シ法律ヲ以テ規定ヲ設クベシ右會議ハ新憲法ノ起草及採擇ノ爲右代表者ノ選舉後六十日以内ニ開催セラルベシ新憲法ハ國民ガ特ニ開催セラルベキ人民投票ニ於テ之ヲ承認スルト同時ニ效力ヲ生ズベシ右承認アリタル後國民議會ハ直ニ新憲法ニ基ク官吏ノ選舉及政府ノ創立ノ準備ヲ爲スベシ

議長 ホセ、ペー、ラウレル

第一副議長 ラモン、アヴァンセーニャ

第二副議長 ベニグノ、エセ、アキノ

議員 ホルヘ、ペー、ヴァルガス

議員 アントーニオ、デ、ラス、アラース

議員 テオフィーロ、シソーン

予ハ前記「フィリピン」國憲法ガ千九百四十三年九月四日「フィリピン」マニラ市ニ於テ開催セラレタル

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

- 議 員 ラファエル、エレ、アルーナ
- 議 員 クラロ、エメ、レクト
- 議 員 キンティン、バレーデス
- 議 員 ホセ、ユーロ
- 議 員 エミリーオ、アギナールド
- 議 員 ミゲール、ウンソン
- 議 員 カミーロ、オシアス
- 議 員 ヴイセンテ、マドリール
- 議 員 マヌエル、セー、ブリーオーネス
- 議 員 エミリアーノ、テー、ティローナ
- 議 員 マヌエル、アー、ロクサス
- 議 員 ペードロ、サビード
- 議 員 メレシーオ、アルラン
- 議 員 アラオーヤ、アロント、スルターン、サ、ラマイン

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）

二八

「フィリピン」獨立準備委員會ノ總會ニ於テ右委員會ニ依リ採擇セラレタルコトヲ茲ニ證明ス

行政部書記官 プロセーソ、エー、セバステイアン

MINISTÈRE DES AFFAIRES ÉTRANGÈRES

(N° 673.)

COLLECTION DES TRAITÉS

Collection XXI, N° 31.

(Le 28 septembre 1948.)

SALIGÁNG-BATÁS
NG
REPÚBLIKÁ NG PILIPINAS

CONSTITUTION
OF THE
REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

IMT 676

176

(673)

TABLE DES MATIERES.

1. Constitution of the Republic of the Philippines (in Tagalog and English).

IMT 676

175

SALIGÁNG-BATÁS
NG
REPÚBLIKÁ NG PILIPINAS

PINAGTIBAY NG
LUPON SA PAGHAHANDÁ NG
KASARINLÁN NG PILIPINAS

SA
LUNSÓD NG MAYNILÀ, PILIPINAS, NANG IKAAPAT
NG SETYEMBRE, SANLIBO SIYÁM NA
RAÁN APATNAPÚ'T TATLÓ

LMT 676

174

SALIGÁNG-BATÁS
 NG
 REPÚBLIKÁ NG PILIPINAS

PANIMULA

Ang bayang pilipino, sa tulong ng Kapangyarihan ni Bathala at sa pagnanasang magkaroón ng isáng malayang kabuhayang-bansá, ay nágpápahayag ngayón ng kaniyang pagsasarilí, at upáng makapagtatág ng isáng pámahalaáng magpápaunlád ng kagálingan ng madlá, mangáhalagá at magpápalagô ng katutubong kaangkinán ng Bansá, at tútulong sa paglikhá ng isáng kayusang pandaigdíg na násasalig sa kapayapaan, kalayaan, at katarungan sa pakikipagkapwá, ay inilálagdá ngayón ang Saligáng-Batás na itó.

PANGKÁT I.—ANG REPÚBLIKÁ NG PILIPINAS

TUNTUNING 1. Ang Pilipinas ay isáng Bansáng republikano. Ang pámahalaáng-bansáng tatág ng Saligáng-Batás na itó ay tátawaging Repúblíká ng Pilipinas.

TUNT. 2. Ang Repúblíká ng Pilipinas ay gáganáp ng kapangyarihan sa lahát ng lupang sakóp ng Bansá na hanggá ngayón ay kinikilala at gaya nang sa kasalukuya'y tinítiyák ng batás.

PANGKÁT II.—ANG TAGAPAGPAGANÁP

TUNTUNING 1. Ang kapangyarihang tagapagpaganáp ay sásakamáy ng Pangulo ng Repúblíká ng Pilipinas.

TUNT. 2. Ang Pangulo ay iháhalál ng nakaráraming kagawad ng buóng Kapulungang Pambansá sa poók at araw na itátakdá ng batás.

TUNT. 3. Di máihalál na Pangulo ang sino mang di má-mamayáng tubò sa Pilipinas, may apatnapúng taón o higit pang gulang, at nanánahán sa Pilipinas sa loób ng di kúkulangin sa sampúng taón bago iraos ang hálalan.

TUNT. 4. Ang Pangulo'y manúnungkulan sa loób ng anim na taón at di na maáaring ihalál uli sa súsunód na panahón.

TUNT. 5. Ang tagál ng panunungkulan ng Pangulo ay matátapos sa katanghalian ng ikatatlumpúng araw ng Disyembreng sumúsunód sa pagkatapos ng anim na taón mulá nang siyá'y máihalál, at sapúl sa násabing araw ay magsísimulá namáng manungkulan ang kaniyang kahalili. Kung ang kaniyang kahalili'y di pa náhihirang hanggáng sa násabing taning, o kung ang bagong-halál na Pangulo ay di pa makapaghawak ng tungkulin, ang háhalinháng Pangulo'y magpápatuloy sa panunungkulan hanggáng sa ang kaniyang kahalili'y máihalál at maári nang gumanáp sa tungkulin. Sakaling ang Pangulo ay máalis sa kaniyang katungkulan, o mamatáy kayá, kusang magbitiw o di na makakaya sa paggamit ng mga kapangyarihan at tungkuling náaatang sa kaniyá, ang nangásabing kapangyariha't tungkulin ay málilipat sa pinaka-unang Ministro nang ayon sa pagkaká-sunud-sunód na takdá ng batás, hanggáng sa ang bagong Pangulo'y máihalál pará sa panghóng di pa nagágampanán. Sa pangyayaring itó, ang hálalan ay idáraos sa loób ng animnapúng araw, mulá sa gayóng pagkáalis, pagkamatáy, kusang pagbibitiw o pagkawalá ng kakayahán.

TUNT. 6. Bago tumanggáp ng tungkól, ang Pangulo ay manúnumpá o magpápatunay ng sumúsunód:

“Akó'y mataimtím na nanúnumpá (o nagpápatunay) na

buóng pagtatapát at kaalamáng gáganapín ko ang aking mga tungkulin sa pagka-Pangulo ng Repúbliká ng Pilipinas, pangán-galagaan ko at ipagtatangól ang kaniyang Saligáng-Batás, ipagáganáp ko ang kaniyang mga batás, igágawad ko ang katárungan sa bawa't tao, at itátalagá ko ang aking sarili sa paglilingkód sa Bansa. Kayá kasihan nawá akó ni Bathalà." (Kung pagpapatunay lamang ang gágawín, ang hulíng pangungusap ay di na bábanggitín.)

TUNT. 7. Ang Pangulo ay magkákaroón ng kaniyang táh-nang pampámahalaán at tátanggáp ng sahod na itátakdá ng batás na di maáring dagdagán ni bawasan sa loób ng panahón ng kaniyang pagkakáhalál, at siyá'y di tátanggáp sa loób ng náaturang panahón ng ibá pang pabuyà ng pámahalaán o ng alinmán sa mga pangkát o sangáy nitó.

TUNT. 8. Ang Pangulo ay siyang makasásakop at mamámanihalà sa lahat ng kágawarán, káwanihán o tanggapan, sa lahat ng pámahalaáng-lalawigan, lunsód at bayan, at sa lahat ng ibá pang bahagi o sangáy ng Kapangyarihang Tagapagpaganáp, at mangángalagà upáng lahat ng batás ay buóng katápatang matupád.

TUNT. 9. Ang Pangulo ang magiging kátaás-taasang punò ng buóng hukbó ng Repúbliká ng Pilipinas, at kailanmá't kákailanganin ay matátawag niyá ang násabing hukbó upáng sawataín o sugpuín ang di pagkilala sa batás, paglusob, paghihimagsík o pagsusuwail. Kung may mangyaring paglusob, paghihimagsík o pagsusuwail, o may nagbábalang panganib na alinmán diyá'y mangyari, o kung hiníhingí kayá ng katahimikan ng bayan, ay maáari niyang pigilin ang bisà ng *habeas corpus* at isailalim ang

Pilipinas o ang alín mang bahagi nitó sa bisà ng batás panghukbó.

TUNT. 10. Híhirangin ng Pangulo ang mga Ministro at ang mga Pangalawáng-Ministro, at sa payo ng kaniyang Gabinete ay híhirang ng mga sugò, mga kinatawáng, diplomátikó, mga konsúl, mga punò ng káwanihán at tanggapan, mga pinunò ng Hukbóng-Dalatan mulá sa antás na Koronél, ng Hukbóng-Dagat at ng Hukbóng-Himpapawíd mulá sa antás na Kapitán o Komandante, mga punong-lalawigan, mga punong-lunsód o punong-bayan, at lahat ng mga ibáng pinunò ng pámahalaán na ang paghirang ay di itinátadhanà ng batás sa ibáng paraán.

TUNT. 11. Magkákaroón ng isáng Sangguniáng-Bansá upáng magbigáy-payo sa Pangulo sa mga bagaybagay na may kinálaman sa mga súliraning pambansá. Yaó'y búbuuin ng di híhigit sa dalawampúng kagawad na híhirangin ng Pangulo sa mga má-mamayáng nakapagpakilala ng katangi-tanging paglilingkód sa Bansá.

TUNT. 12. Ang Pangulo ay may kapangyarihan, kung kasang-ayon ang boto ng dalawáng-katlóng bahagi ng lahat ng kagawad ng Kapulungang Pambansá, na magpahayag ng pakikidigmá at makipagpáyapaán, at, kung sang-ayon ang nakará-rami ng mga kagawad ng násabing Kapulungan, ay gumawá ng mga pakikipagkásunduan. Tátanggapín niyá ang mga may-katibayang sugò at mga kinatawáng diplomátikó sa Pámahalaán ng Repúbliká ng Pilipinas.

TUNT. 13. Ang Pangulo, salig sa mga kalágyan, hangganan at katakdaáng minámarapat niyang iatas, ay may kapangyarihang makapigil o makapagbawas ng hatol, o makapaggawad ng kapatawarán, makapagpatawad ng multá, o ng pagsamsám. ng pag-aari, matapos mahatulang magdusa sa lahat ng pagkakásalang

ikinápagsakdál sa pinatátawad. Siyá'y may kapangyarihang magkaloób ng kapatawaráng panlahát (*amnesty*) kung kasang-ayon ang Kapulungang Pambansá.

TUNT. 14. Ang Pangulo, manaká-naká'y magbíbigáy ng patalastás sa Kapulungang Pambansá hinggil sa kalágayan ng Bansa, at magtátagubilin ng mga balak na ináakalà niyang kailangan at sa mádalia'y dapat isabatás.

PANGKÁT III.—ANG BATASÁN

TUNTUNING 1. Ang kapangyarihang tagapagbatás ay gágampanán ng Kapulungang Pambansá.

TUNT. 2. Ang Kapulungang Pambansá ay búbuuin ng mga punong-lalawigan at mga punong-lunsód bilang mga kagawad na *ex-officio* at ng mga kinatawáng iháhalál tuwing ikatlong taón, na isá sa baw't lalawigan at lunsód na nakatatág. Ang araw at paraán ng paghahalál sa mga hálaling kinatawán at ang pamalakad sa paglalagáy ng panghalili sa mga bakante ay itáakdá ng batás, na di maáaring palitán o baguhin habang mayroón pang Digmaan ng Lalong Malaking Silangang-Asya.

TUNT. 3. Di máihahalál sa Kapulungang Pambansá ang sino mang di naging mámamayáng Pilipino sa loób ng limáng taón hanggáng sa araw ng hálalan, at kung ang gulang ay waláng tatlumpung taón man lamang.

TUNT. 4. (1) Ang Kapulungang Pambansá ay magtítipon upáng magdaos ng karaniwang pagpupulong minsan sa baw't taón sa araw na itáakdá ng batás, nguni't waláng karaniwang pagpupulong na tátagál nang higit sa animnapung araw, dikabilang ang mga linggó. Matátawag ng Pangulo ang Kapu-

lungan upáng papagdausin ng tanging pulong, sa panahóng kaniyáng marapatín, at dito'y pag-usapan ang mga batás na panlahát o kayá'y yaón lamang mga súliraning kaniyáng máitatagubilin.

(2) Híhirangin ng Kapulungang Pambansá ang kaniyáng Patnubay (*Speaker*), isáng kalihim at isáng tagapag-ayos, at saká ang mga ibá pang pinunong kákailanganin. Mahigít sa kalahatí ng buóng bilang ng mga kagawad ang kíkilanling sapát na bilang (*quorum*) upáng makapagpulong, nguni't kung di áabót sa gayóng bilang ay maáaring ipaliban araw-araw ang pagpulong at mapilit ang pagdaló ng mga kagawad na di dumádaló, sa paraán at mga kaparusaháng itátakdá ng Kapulungang Pambansá.

(3) Ang Kapulungang Pambansá ay siyáng tanging hukóm na makapagpápasíyá sa pagkakáhalál at sa mga karapatán ng halál na mga kagawad, at siyá ring makapagtátakdá ng mga álituntunin sa pamamalakad, makapagpáparusa sa kaniyáng mga kagawad sa diwastóng kaasalán, at kung may pagsang-ayon ng dalawáng-katlóng bahagi, ay makapagtíwalág sa isáng kagawad. Ang Kapulunga'y mag-iingat ng isáng aklát-katitikan ng kaniyáng mga pinagpasiyahán, na sa paná-panahó'y máilalathalá, mátangì lamang yaóng mga bahaging ayon sa kaniyáng palagáy ay dapat ilihim; at ang mga "oo" at "hindi" sa anó mang súliranín ay itátalá sa aklát-katitikan kung siyáng hiling ng isáng-kalimáng bahagi ng mga kaharáp na kagawad.

TUNT. 5. Ang Patnubay at mga kagawad ng Kapulungang Pambansá ay tátanggáp ng sahod na itátakdá ng batás, bukód pa ang bayad sa mga gugol sa paglalakbáy nang bálikan mulá sa kaní-kaniláng lalawigan sa pagdaló sa mga pulong ng Kapu-

lungang Pambansá. Waláng kapangyarihan ang Kapulungang Pambansá na magdagdag ng sahod ng kaniyang Patnubay at mga kagawad sa loób ng panahón ng kaniláng panunungkulan.

TUNT. 6. Ang mga kagawad ng Kapulungang Pambansá ay may tanging karapatáng di madadakíp samantalang silá'y dumádaló sa mga pulong ng Kapulungang Pambansá, at sa pagtungo at panggagaling doón, máliban lamang kung silá'y makágawá ng isáng pagkakásalang ang kaparusaháng takdá ng batás ay kamátayan o pagkábilanggóng hihigít sa labindalawáng taón; at sa anó mang talumpati o pakikipagtalong gawín sa loób ng Kapulungan ay di silá mapanánagót saán mang ibáng pook.

TUNT. 7. (1) Iháharáp ng Pangulo sa loób ng sampúng araw mulá sa pagbubukás ng bawa't karaniwang pulong ng Kapulungang Pambansá, ang isáng balak na ukol sa mga kita at gugol (*budget*) na siyang magiging batayán ng panukalang-batás ng pangkalahatáng gugulín.

(2) Kung sa katapusán ng alín mang taóng pampámahalaán ay di nakapaghandá ng panukalang-batás ng mga gugulín upáng itustós sa Pámahalaán sa súsunód na taón, ang ibá't ibáng halagáng inilaán sa huling balak na batás ng mga gugulín ay ipalálagáy na siyang muling inilálaán upáng ipagtakíp sa mga pangangailangan at láyuning násasabi roón, kailanmá't ináakalâ ng Pangulo na yaó'y magágawá hanggáng sa makapagpatibay ng sadyáng balak na gugulíng pangkalahatán.

(3) Di makapagsásama ng anó mang tadhaná, o habol na pasiyá sa balak na ukol sa pangkalahatáng gugulín, máliban na lamang kung may kinálaman sa anó mang tiyák na gugulíng násasabi sa batás; at ang ganitóng tadhaná o habol na pasiyá ay

tanging magágamit doón sa talagáng tinútukoy na paggugulan,

TUNT. 8. Ang mga Ministro, sa saríli niláng kalooban, o sa kahilingan ng Kapulungang Pambansá, ay makaháharáp sa Kapulungang Pambansá at madíringíg nitó hinggil sa anó mang bagay na náuukol sa kaniláng kágawarán, máliban na lamang kung magiging labág sa kapakanán ng bayan at itó'y ipaháhayag sa isáng sadyáng sulat ng Pangulo.

TUNT. 9. (1) Waláng panukalang-batás na nagdaán sa Kapulungang Pambansá na magiging batás máliban kung may patibay ng Pangulo. Kung pinagtítibay nitó ang panukalang-batás ay lálagdaán niyá; nguni't kung hindi, ay ipabábalík sa Kapulungang Pambansá na kalakíp ng kaniyang mga pansín at tutol, at ang mga pansín at tutol na itó'y itátalá sa aklát-katitikan at maáaring ang násabing panukalang-batás ay mulíng pag-usapan at pagtibaying panibago sa pamamagitan ng pagsang-ayon ng dalawáng-katlong bahagi ng lahat niyang kagawad. Sa lahat ng ganitóng pangyayari ang pasiyá ng Kapulungang Pambansá ay ipakíkilala sa pamamagitan ng mga tugóng "oo" at "hindi", at ang pangá-pangalan ng mga kagawad na nagsitugón nang sang-ayon at di sang-ayon ay itátalá sa aklát-katitikan. Kung mulíng di pagtítibayin ng Pangulo ang panukalang-batás, itó'y di na mapag-úusapan ng Kapulungang Pambansá sa pulong ding iyón. Kung ang alín mang panukalang-batás, matapos máiharáp sa Pangulo, ay di nitó ipabalik, gaya nang dito'y itinátadhanà, sa loób ng dalawampúng araw, liban ang mga linggó, ang násabing panukalà ay magiging batás na gaya rin ng kung kaniyang nilagdaán, máliban lamang kung dahil sa pagwawakás ng pulong ng Kapulungang Pambansá ay magkaroón ng sagabal ang pag-

papabalik, sa ganitóng pangyayari ay magiging batás na ang násabing panukalà, matangi lamang kung di sang-ayunan o betuhan ng Pangulo sa loób ng apatnapúng araw pagkatapos ng pagpupulong.

(2) Ang Pangulo ay may kapangyarihang huwág magpatibay sa alín mang talatà ng panukalang gugulín, síngilin o taripa, nguni't ang di pagpapatibay ay di makapípsalà sa alín mang talatà o mga talatang di niyá tinútutulan. Kung ang tadhana ng isáng panukalang-batás ng mga gugulín ay sumásaklâw sa isá o ilán mang talatà ng násabing panukalà, ang tadhana'y di mapawáwaláng-kabuluhán ng Pangulo nang di masásaklâw patí talatà o mga talatang-doó'y may kaugnayán.

TUNT. 10. (1) Hindi maáaring ang isáng panukalang-batás na ilálagdá ay sumaklâw ng mahigit sa isáng paksáng isinásaysáy sa pamagát ng tinurang panukalà.

(2) Hindi maáaring pagtibayin o magíng batás ang alín mang panukalang-batás kung ang mga salin nitóng ayos-pangwakás na ay di náibigáy sa mga kagawad sa loób ng tatlong araw man lamang bago pagtibayin ng Kapulungang Pambansá, máliban na kung patotohanan ng Pangulo ang pangangailangang ilagdâ karaka-raka ang batás. Sa hulíng pagbasa ng isáng panukalang-batás ay di na mapahihintulatang magpasok pa ng anó mang pagbabago, at ang pagpapasyá upáng pagtibayin ay siyáng kanawanawa na lamang gágawín, at ang mga pasiyáng "oo" at "hindi" ay itátalâ sa aklát-katitikan.

TUNT. 11. (1) Lahát ng salapíng másingíl sa anó mang pabuwís na nilikhâ pará sa isáng tanging láyunin ay kíkilalaning isáng tanging pananalapí at ipamámayad lamang sa gayóng

láyunin. Kung ang láyuning ipinaglikhá ng tanging pabuwís ay natakpán na o pinabayaan na kayá, ang málabíng salapí, kung mayroón, ay ililipát sa pananalapíng panlahát ng Pámahalaán.

(2) Di maibabayad ang anó mang salapíng nasa-Ingatáng-Yaman nang di sa bisà ng isáng nakalaáng gugulíng gawá ng batás.

(3) Ang salapí o ariariang bayan ay di máilalaán, máiuukol o magágamit, nang túwiran o di man túwiran, sa kapakanán, kapakinabangán o pangtangkilik ng alín mang sekta, simbahan, o ibá't ibá pang ngalan at urí ng pananampalataya o relihiyón, ni sa kapakanán, kapakinabangán o pagtangkilik sa alín mang parè, tagapangaral, alagád ng pananampalataya, o kayá'y ibá pa mang gurò o pinunò ng relihiyón, máliban lamang kung ang násabing parè, tagapangaral, alagád o pinunò ay pinapaglilingkód sa isáng hukbó, o kayá'y sa isáng párusahan, ampunan ng mga ulila o págamutan ng mga kétongin.

TUNT. 12. (1) Ang pátakarán sa mga pagpapabuwís ay dapat magíng magkakatulad.

(2) Maáring ang Kapulungang Pambansá, sa pamamagitan ng batás, ay magpahintulot sa Pangulo, ayon sa mga katakdaán at hangganang máilalagdá, na magtakdá ng mga síngiling taripa, takdáng-dami ng mga kalakal na papasók at palabás, at mga pabuwís sa tonelahe at sa mga dáungan.

(3) Ang mga libingan, simbahan at mga kakatnig na bahay-parè o bahay-pastór, at lahat ng lupà, gusali, at mga mehorang ginágamit lamang sa mga láyunin ng pananampalataya, pagkakawangawá o pagtuturò, ay ligtás sa anó mang pabuwís.

TUNT. 13. Sa mga panahón ng digmá o anó mang kapanga-

niban ng Bansa, ang Pangulo'y maáaring pahintulutan ng Kapulungang Pambansa, sa pamamagitan ng batas, na maglagdá ng mga álituntunin at pamalakad na súundín sa pagpapairal ng isáng tiyák na pátakarang pambansa sa loób ng isáng tiyák na panahón at alinsunod sa mga pasubali at hangganang mámara-patin.

TUNT. 14. Kung ang Kapulungang Pambansa ay hindi nagpupulong, ang Pangulo, sa mga mádaliang pangangailangan, ay maáaring maglagdá ng mga pamalakad at kautusáng magkakaroon ng lakás at bisà ng batas hanggang hindi napawawaláng-saysáy ng Kapulungang Pambansa, sa pamamagitan ng isáng sadyáng kapasiyaháng napagtibay bago magtapós ang dárating niyang pagpupulong na karaniwan.

PANGKÁT IV.—ANG HÚKUMAN

TUNTUNING 1. Ang Kapangyarihang Tagahatol ay gágampanán ng Kátaás-taasang Húkuman at ng mga húkumang mabababà kaysá kaniya na maitátatág ng batas.

TUNT. 2. Ang Kapulungang Pambansa ay may kapangyarihang tumiyák, magtakdá at magbahá-bahagi ng sakláv ng ibá't ibáng húkuman, nguni't di makapag-áalis sa Kátaás-taasang Húkuman ng katutubong kapangyarihan nitó sa mga usapíng náukol sa mga sugò, mga kinatawáng diplomátikó at konsúl, ni ng kapangyarihan niya sa pagsuri uli, paglilitis, pagpapawaláng-saysáy, pagbabago o pagpapatibay, gayón din sa paghahabol, pagpuná sa pasiyá (*certiorari*), o paglalahad ng mga kamálian, alinsunod sa máitatadhanà ng batas o ng mga pánuntunan ng húkuman, patí sa mga pasiyáng pangwakás ng mga mababang

húkuman sa lahat ng usapíng may súliraning ukol sa Saligáng-Batás, o kung pinagtátalunan ang isáng kautusán o utos na nagpápaganáp o pamalakad, o kayá'y may pagtatalo tungkól sa kasaklawán ng alín mang húkuman, o dili kayá namá'y náuukol sa mga kamálian lamang at álinlangan sa batás.

TUNT. 3. Máliban na kung mag-ibáng tadhanà ang batás, ang Kátaás-taasang Húkuman ay búbuuín ng isáng Mataás na Punong Hukóm at anim na Katulong na Mataás na Hukóm.

TUNT. 4. Ang mga Kagawad ng Kátaás-taasang Húkuman ay híhirangin ng Pangulo pagkapagsanggunì sa Gabinete. Lahát ng hukóm sa mga mababang húkuman ay híhirangin ng Pangulo pagkapagsanggunì sa Kátaás-taasang Húkuman.

TUNT. 5. Di mahíhirang na kagawad ng Kátaás-taasang Húkuman ang di mámamayán sa Pilipinas, may gulang na di kúkulangin sa apatnapúng taón at nagíng hukóm sa mabababang húkuman o kayá'y nagmánananggól sa Pilipinas nang mga sampúng taón man lamang.

TUNT. 6. Ang Kapulungang Pambansá ay siyáng magtátad-hanà ng mga katangiang ikapagiging-dapat sa pagka-hukóm sa mabababang húkuman nguni't di mahíhirang na hukóm sa alín man sa nangásabing húkuman ang sino mang di mámamayán sa Pilipinas at di pa náatanggap sa pagganáp ng pagkámánananggól sa Pilipinas.

TUNT. 7. Ang mga kagawad ng Kátaás-taasang Húkuman at ang mga hukóm sa mabababang húkuman ay manánatili sa kani-kaniláng tungkulin habang silá'y nanúnuparan nang tumpák, o hanggáng sa silá'y mawalán na ng kaya sa pagtupád ng mga tungkuling hawak. Silá'y tátanggap ng sahod na máita-

takdá ng batás, na di maáaring bawasan sa loób ng kaniláng pananatili sa tungkulin, máliban na lamang kung magkaroón ng isáng panibagong pag-uri sa mga sáhurán ng laháat ng pinunò at kawani ng pámahalaán.

TUNT. 8. Ang mga kapasiyahán ng Kátaás-taasang Húkuman sa anó mang usapíng nádudulóg sa kaniyáng paghatol ay dapat manggaling sa pagsasanggúnian muna, bago itiwala sa isáng Mataás na Hukóm ang pagsulat ng kahatulán ng Húkuman. Sino mang Mataás na Hukóm na di sang-ayon sa nagíng kahatulán ay magpápahayag ng mga katwiran ng di niyá pag-sang-ayon.

TUNT. 9. Hindi máipasisiyáng labág sa Saligáng-Batás ang alín mang batás, utos na nagpápaganáp, kautusáng, [o álituntunin, kung di sinásang-ayunan ng laháat ng kagawad ng Kátaás-taasang Húkuman.

TUNT. 10. Hindi máilalagdá ng isáng mababang húkuman ang anó mang hatol nang di buóng liwanag at katiyakáng ná-sasaysáy ang mga pangyayari at ang batás na pinagbábatayan.

TUNT. 11. Ang Kátaás-taasang Húkuman ay may kapang-yarihang maglagdá ng mga álituntuning ukol sa mga paglalahad ng matwíd, pamalakad at mga pamamaraán sa laháat ng húkuman, at gayón din sa pagtanggáp ng mga magmamánananggól. Ang násabing mga álituntunin ay dapat magíng magkakatulad sa laháat ng húkumang magkakauri at di maáaring magbawas, magdagdag o bumago sa mga katutubong karapatán. Lahát ng umiiral na batás hinggil sa paglalahad ng matwíd, pamalakad at mga pamamaraán ay maáaring mabago o mapalitán ng Kátaás-taasang Húkuman.

PANGKÁT V.—PAG-USIG SA MATATAAS NA PUNÒ
(IMPEACHMENT)

TUNTUNING 1. Ang Pangulo ng Repúbliká at ang mga Hukóm ng Kátaás-taasang Húkuman ay maáalis sa tungkulin, sa bisà ng "impeachment", matapos mapatunayang nagkásala ng paglabág sa Saligáng-Batás, o ng pagtataksíl, pagpapasuhol, o ibá pang mabibigát na pagkakásala.

TUNT. 2. Sa bisà ng pasiyá ng dalawáng-katlóng bahagi ng mga kagawad ng Kapulungang Pambansá, ang Kapulungang itó'y siyáng tanging may kapangyarihan ng "impeachment" o pag-uusig sa pagpapabitiw.

TUNT. 3. Ang Kátaás-taasang Húkuman ay siyáng tanging may kapangyarihang lumitis sa lahát ng paguusig sa pagpapabitiw sa tungkulin (*impeachment*). Waláng kíkilanling nagkásala kung di sásang-ayunan ang hatol ng tatlong-kapat na bahagi ng lahát ng Hukóm ng Kátaás-taasang Húkuman.

TUNT. 4. Ang kahatulán sa mga sakdál ukol sa "impeachment" ay di lálampás sa pagtitiwalág sa tungkól at pag-aalis ng karapatáng makapaghawak ng tungkuling marangál, o ng pagtitiwalà, o kapakinabangán sa ilalim ng Pámahalaán ng Repúbliká ng Pilipinas, nguni't ang náparusahan ay maári rin namáng mausig, malitis at maparusahan nang ayon sa batás.

PANGKÁT VI.—PAGKA-MÁMAMAYÁN

TUNTUNING 1. Ang mga sumúsunód ay siyáng mga mámayán sa Pilipinas:

(1) Yaóng mga mámayán sa Pilipinas sa araw ng pag-

papatibay sa Saligáng-Batás na itó at ang kaniláng mga íaanák.

(2) Yaóng mga nagmámamayáng Pilipino sang-ayon sa batás.

TUNT. 2. Ang pagka-mámamayáng Pilipino ay maáaring mawalá o mulíng mátamó sa paraáng itinátadhanà ng batás.

PANGKÁT VII.—TUNGKULIN AT KARAPATÁN NG MAMAMAYÁN

TUNTUNING 1. Tungkulin ng bawa't mámamayán ang maghandóg ng sariling paglilingkód sa hukbó o sa pámahalaán ayon sa máitatadhanà ng batás, ang magbayad ng mga buwís at kautangáng pambayan, at ang magkaroón ng isáng mapakíkina-bangang gáwain, hanapbuhay o katungkulan.

TUNT. 2. Sino mang tao'y di maáalisán ng buhay, kalayaan o pag-aari nang di sa pamamagitan ng mga paraáng nábabatás, at walá ring sino mang taong pagkákaitán ng pantáy-pantáy na tangkilik ng mga batás.

TUNT. 3. Di makapaglálagdâ ng batás na magtátangi sa pagkakátatág ng isáng relihiyón o nagbábawal kayá ng malayang pananampalataya at di kákailanganing suriin pa ang pananampalataya ng isáng tao bago siyá makagamit ng mga karapatán sa pagka-mámamayán.

TUNT. 4. Di makapaglálagdâ ng batás na makasisirâ sa bisâ ng mga kásunduan.

TUNT. 5. Di makapaglálagdâ ng batás na ang bisa'y sásaklâw sa nakaraáng panahón.

TUNT. 6. Di maipabíbilangô ang isáng tao sa pagkakautang.

TUNT. 7. Di matútulutan ang isáng sápiritáng paglilingkód sa anó mang uri't paraán, máliban na lamang kung bilang isáng pa-

rusa sa pagkakásala na ang náparusaha'y nagdaán sa ukol na paglilitis.

TUNT. 8. Ang tanging karapatán sa paghingi ng *habeas corpus* ay di mapípigil, máliban na lamang kung may paglusob, paghihimagsík, pagsusuwail, o kung ang pagpigil ay siyáng hiníhingi ng katahimikan ng bayan.

TUNT. 9. Ang pag-aaring sarili ay di makúkuha pará sa kagamitáñg-bayan nang waláng karampatang bayad.

TUNT. 10. Ang malayang pagdulóg sa mga húkumang pampángasiwaán ay di máikakaít sa sino mang tao dahil sa kaniyang karukhaán.

TUNT. 11. Alinsunod sa mga katakdaáng ilálagdá ng batás sa kapakanán ng kapayapaan, dakilang ugali, kalúsugan, kaligtasan at kapanatagán ng bayan :

(1) Ang karapatán sa pamamanatag laban sa waláng matwid na paghahalughóg at pananamsám ay di lálabagín.

(2) Ang kalihimán ng pagpapáhatiran at pagsusulatán ay di pakíkialamán.

(3) Ang karapatán sa pagbuò ng mga samahán at kapisanan sa mga láyuning di laban sa batás ay di líligaligin.

(4) Ang malayang pagganáp sa mga tungkulin sa pananam-palataya at pagdalangin, nang waláng pagtatangi-tangi at pagkiling, ay di háhadlangán.

(5) Ang kalayaan sa paninirahan at ang pagbabago ng táhanan sa loób ng mga hangganang itinátakdá ng batás, ay di gágambalain.

(6) Ang kalayaan sa pagsasalitá at ng páhayagán, o ang karapatán ng bayan sa mapayapang pagtitipon at sa paghingi sa

pámahalaán ng lunas sa mga hinakdál at kaapihán, ay di sásan-salain.

PANGKÁT VIII.—PANGANGALAGÀ AT PAKIKINABANG SA MGA LIKÁS NA KAYAMANAN

TUNTUNING 1. Lahát ng lupaíng-bayang mapagtátamnán, kahuyan at minahán, ang mga tubig, mga mina, batóng-uling, petrolyo, at ibá pang bukál na gaás o langís, lahát ng mga búkalan ng lakás na pampakilos, at alín pa mang ibáng mga likás na batis ng kayamanan ng Pilipinas, ay pag-aari ng Bansá, at anó mang pagtatalagá, paggamit, pagpapaunlád o pakikinabang ay magágawá lamang ng mga mámamayáng Pilipino, o ng mga samahán o kapisanang ang animnapû man lamang sa sandaán ng puhunan ay ari ng násabing mga mámamayán, na di makapípsalâ sa alín mang tagláy na karapatán, o alín mang pagkakápagkaloób, pangungupahan o kapahintulutáng umiiral na ang mga araw na magsimulâ ang pámahalaáng itinátatág ng Saligáng-Batás na itó. Ang mga likás na kayamanan, máliban ang mga lupang-bayang sakahín, ay di máibibigáy sa alín mang tao, at hindi magpápahintulot, magkákaloób, at magpápaupa upáng mapakinabangan, mapaunlád o mágamit ang alín man sa nangásabing likás na kayamanan, sa isáng taning na lálampás sa dalawampú't limáng taón na mapalálawig ng isá pang dalawampú't limáng taón, máliban lamang kung náuukol sa karapatán sa mga tubig na gamit sa pagpapatubig sa bukid, páimbakang-tubig, paláisdaan o sa anó mang indústriya o hanapbuhay na ibá kaysá pagpapaunlád ng lakás na pampakilos, na ang pakikinabang

sa paggamit ay siyáng pagpápatakaran ng mga takdá sa pagkakaloób.

TUNT. 2. Waláng samahán o kapisanang maáaring mag-angkín, umupa o humawak ng anó mang lupang-bayang sakahín na ang laki ay lálampás sa sanlibo dalawampú't apat na ektárea, at sino mang tao ay di makapag-áangkín nang lálampás sa sandaán at apatnapú't apat na ektárea, ni makaúupa nang lálampás sa sanlibo dalawampú't apat na ektárea, ni makakúkuha ng hómisted na híhigít sa dalawampú't apat na ektárea. Ang mga lupang-bayang magágamit na páligawan ng hayop na di lálampás sa dalawáng libong ektárea, ay mapaúupahan sa isáng tao, samahán o kapisanan.

TUNT. 3. Ang Kapulungang Pambansá, sa pamamagitan ng batás, ay maáaring magtakdá ng laki ng mga lupang sariling sakahín na maáangkín at maháhawakan ng mga tao, samahán o kapisanan, nang di makapípinsalà sa mga karapatáng hawak na nilá bago ilagdá ang gayóng batás.

TUNT. 4. Ang Kapulungang Pambansá ay makapagpápahin tulot, sa pamamagitan ng pagbabayad ng karampatang halagá, ng sápilitang pagkuha ng mga lupang mapagháhati-hati sa maliliít na bahagi at máipagbíbili sa mga tao sa halagá ng pagkakábili.

TUNT. 5. Alín mang lupang sakahing arí ng kahi't sinong tao ay di máililipat o máipággakaloób liban na lamang sa mga tao, samahán o kapisanang may sadyáng karapatáng makapag-angkín o humawak ng mga lupang-bayan sa Pilipinas, o sa mga taong, sa bisà ng batás, ay may karapatáng magmana sa mga pag-aaring naiwan ng namatáy nang waláng hulimbilin.

PANGKÁT IX.—MGA TADHANANG PANGKALAHATÁN

TUNTUNING 1. Ang watawat ng Pilipinas ay kulay pulá, puti at bugháw, may isáng araw at tatlong bituin, na siyáng dinakilá at iginalang ng sambayanáng Pilipino.

TUNT. 2. Ang Pámahalaán ay gágawá ng mga hakbanging tungo sa ikaúnlád at ikalálaganap ng Tagalog na siyáng wikang pambansá.

TUNT. 3. Magkákaroón ng isáng Tanggapan ng Pangkalahatang Pagsusuring-tuós (*General Auditing Office*), upáng sumiyasat sumuring-tuós at magsaayos ng lahat ng katúusang ukol sa mga pabuwís, síngilin, paggugol ng mga salapi at ariarian ng Pámahalaán, ng kaniyang mga pangkát at sangáy, gayón din namán ng sa mga tao at kapisanang títukuyin ng batás.

TUNT. 4. Isáng Káwanihán ng Paglilingkód sa Pámahalaán (*Civil Service Office*) na sásaklaw sa lahat ng pangkát at sangáy ng Pámahalaán, ang itátadhaná ng batás. Ang paghirang sa mga maglilingkód sa pamamagitan ng Káwaniháng itó, málíban lamang sa mga magháhawak ng tungkuling may karapatáng makapagpairal ng sariling pamamalakad, o sa mga pinaglálagakan ng tanging pagtitiwalá o sa mga nangángailangan ng mga tanging kadalubhasaan, ay laging másasalig lamang sa mga karapatán at kakayahán, at hanggá't maári'y gágawín ang pagpili sa pamamagitan ng pagsusulit at páligsahang-kaya.

TUNT. 5. Lahát ng mga pinunong maglilingkód sa pámahalaán at sa hukbó ay gágawá ng isáng panunumpá na ipagmámalasakit nilá at ipagtátanggól ang Saligáng-Batás.

TUNT. 6. Ang sino mang pinunò, o kawaní sa Pámahalaán

ay di makatatanggap ng dagdag o dalawang pasahod, maliban na lamang kung sadyang ipinahihintulot ng batas.

TUNT. 7. Ang mga pinuno o kawani ay di makapanungkulan ng ano mang ibang hanapbuhay o propesyon, habang sila'y naglilingkod sa Pamahalaan, ni hindi rin maaring sa tuwiran o hindi man ay makapakialam sa pangangasiwa o pamamanihala ng ano mang sariling hanapbuhay na sa paano ma'y sukat makapinsala sa lakad ng kanilang tungkuling pampamahalaan; ni hindi rin namán sila makapanghihimasok sa pamumuhunan ng alin mang pakikipagkasunduan sa Pamahalaan, o sa alin mang pangkat o sangay nitó.

TUNT. 8. Ang pagpapaunlad ng katatungang panlipunan upang matiyak ang ikapanatag at ikagiginhawa ng kapamuhayan ng buong bayan, ay haaharapin ng Pamahalaan.

TUNT. 9. Pasisiglahin ng Pamahalaan ang mga panlilikha at pananaliksik na hinihingi ng kaaghaman. Sasailalim ng kaniyang pagtangkilik ang mga sining at panitikan. Ang mga tanging karapatan sa mga akda at likha ng mga may-akda at maylikha ay paninindigan ng Pamahalaan sa loob ng isang panahon.

TUNT. 10. Lahat ng mga paaralan o kapisanan sa pagtuturo ay sasailalim ng pangangalaga ng Pamahalaang-bansa at tatalima sa mga alituntuning ilalagda nitó. Ang Pamahalaan ay magtatatag at magpapairal ng isang alituntuning ganap at angkop sa ikarurunong ng bayan at magbubukas ng mga walang-bayad na paaralang-bayan sa mga pangunang karunungan man lamang, at sa ikatututo ng mga magulang nang tao ng mga karapatan at tungkulin nila sa pagka-mamamayan. Lahat ng mga paaralan,

dálubhasaan at pámantasan ay magsísikap ng pagpapalusóg ng mabuting kaasalán, ng wastóng pagtataguyod sa sarí-sarili at sa pakikipagsamahán, ng damdamingbayan at ng kasanayáng hilig sa paghahanapbuhay upáng mangagkaroón ng kasapatáng-kaya sa pakikipamuhay, tulóy magtúturò sa madlá ng mga tungkulin sa pagka-mámamayán. Magpápatuloy ang mga páaraláng-bayan sa gaya ng hanggá ngayó'y ipinahíhintulot ng batás na saíbigáng pagtuturò ng náuukol sa pananampalataya. Ang Pámahalaán ay maglálaán ng salapí sa pagpapaaral ng mga sining, kaaghamán at pánitikán sa mga taong-bayang may díkaraniwang kakayahán.

TUNT. 11. Kákahi gain ng Pámahalaán ang paggawá, lalunglalò na ang mga manggagawang babae at batang waláng sapát na gulang, at panúnutuhan ang pagsasamahán ng maylupá at mga kasamá, at ang pagpapálagayan ng paggawá at puhunan sa mga sakahán at págawaan. Maáaring ang Pámahalaá'y magutos ng sápiritáng pag-aayos ng mga sigalót sa paggawá.

TUNT. 12. Maáaring ang Pámahalaán, sa ikabúbuti at ikapagsásanggaláng ng Bansá, ay magtatág at magpalakad ng mga indústriya o hanapbuhay at ng mga kaparaanán sa pálulanan at páhatiran, at sa pamamagitan ng karampatang bayad, ay maglipat sa ngalan at kapakanán ng bayan ng pagmamay-ari sa mga kagamitáng-bayan at ibá pang mga háhapbuhayang ari ng mámamayán, upáng ang Pámahalaá'y siyá nang magpalakad ng mga itó.

TUNT. 13. Hindi magkákaloób ng prangkisya, katibayan o anó mang uri ng kapahintulután pará sa pagpapalakad ng isáng kagamitáng-bayan máliban na lamang sa mga mámamayáng

Pilipino, o sa mga samahán at ibá pang kapisanang nátatatág nang ayon sa mga batás ng Pilipinas, na ang animnapû sa sandaán ng puhunan ay arì ng mga mámamayáng Pilipino; ni ang násabing prangkisya, katibayan o kapahintulután ay magkákaroón ng uring sariling-sarili, ni tátagál nang mahigít sa limampúng taón. Waláng prangkisya o tanging kapahintulutáng maipagkákaloób sa sino mang tao, bahay-kalakal o samahán, máliban na lamang sa pagkakáunawang yaó'y maáaring susugan o baguhin, o pawaláng-bisà ng Kapulungang Pambansá kung gayón ang hiníhingi ng kapakanáng-bayan.

TUNT. 14. Ang Kapulungang Pambansá ay hindi makapagbabatás ng pagbuò, pagtatatág o pagpapalakad ng mga samaháng partikular nang di sa bisà ng pangkalahatang batás, at máliban na lamang kung ang násabing samahán ay arì o itinátaguyod ng Pámahalaán o ng alín mang pangkát o sangáy nitó.

PANGKÁT X.—PAGSUSUSOG

TUNTUNING 1. Ang Kapulungang Pambansá, sa pamamagitan ng pasiyá ng dalawáng-katlóng bahagi ng lahat niyang mga kagawad, ay makapagpápalagáy ng mga susog sa Saligáng-Batás na itó, nguni't ang násabing mga susog ay di magkákabisà na bilang bahagi ng Saligáng-Batás kung di pagtítibayin muna ng sambayanán sa pamamagitan ng plebisito o ng isáng kapulungang panlahát na sadyáng tinawag at ipinaraos ng batás sa araw at kaparaanáng itinátakdá nitó.

PANGKÁT XI.—MGA TADHANANG PANSAMANTALA

TUNTUNING 1. Ang Saligáng-Batás na itó ay pagtítibayin ng sambayanán sa isáng plebisito o kapulungang panlahát na sadyáng tinawag pará sa layong itó. Ang kaparaanán ng pagdaraos ng tinurang plebisito o kapulungang panlahát ay itátadhanà ng batás.

TUNT. 2. Ang unang Kapulungang Pambansá ay magtítipon sa poók at araw na takdá ng batás, at kapagdakang mátatág ay magháhalál ng Pangulo ng Repúbliká ng Pilipinas.

TUNT 3. Ang mga kasalukuyang kágawaráng tagapagpaganáp ng umíral na Pámahalaáng Tagapagpaganáp ng Pilipinas ay manggápatuloy na bilang kágawarán o Ministeryo ng Repúbliká hanggáng ang Kapulungang Pambansá ay hindi nagbábatás ng ibáng bagay.

TUNT. 4. Lahát ng batás sa Pilipinas ay magpápatuloy sa tagláy na bisà hanggáng sa mapasinayaan ang Repúbliká; pagkatapos nitó, lahát ng násabing mga batás ay manánatili sa pag-iral máliban kung nálalabág sa Saligáng-Batás na itó, hanggáng sa masusugan, mabago, mapag-ibáng-ayos o mapawaláng-bisà ng Kapulungang Pambansá, at lahát ng banggít ng násabing mga batás sa Pámahalaán at mga pinunò ng Pilipinas o ng Pámahalaáng Tagapagpaganáp ng Pilipinas, ay ipalálagáy hanggá't máiuukol, na tumútukoy sa Pámahalaán at mga kinaú-ukulang pinunò sa ilalim ng Repúbliká.

TUNT. 5. Lahát ng húkumang nakatatág sa araw ng pagpapatibay sa Saligáng-Batás na itó ay magpápatuloy sa pag-iral sa kaní-kaniláng kasaklawán, máliban na lamang doón sa maáaring

maging di-angkóp sa mga tadhanà ng Saligáng-Batás na itó, hanggáng sa ang batás, sang-ayon sa Saligáng-Batás na itó rin, ay magtadhanà ng ibáng bagay; nguni't ang lahat ng usapín, maging sibil o kriminál, na nabibimbín sa násabing mga húkuman ay lilitisin at pagpápasiyahán nang ayon sa mga batás na hanggáng noó'y umiiral.

TUNT. 6. Lahát ng pinunò at mga kawani ng Pámahalaán sa ilalim ng Pámahalaáng Tagapagpaganáp ng Pilipinas ay magpápatuloy sa kaní-kaniláng tungkulin hanggáng sa ang Kapulungang Pambansá ay di nagtátadhanà ng ibáng bagay; nguni, lahat ng pinunong ang paghirang sa kanilá, sang-ayon sa Saligáng-Batás na itó, ay nasa-kamáy ng Pangulo, ay áalis sa kaní-kaniláng tungkulin pagkáhirang at pagtanggáp ng tungkól ng kaní-kaniláng kahalili.

TUNT. 7. Bagamán may mga kabawalán at katakdaáng nása-saad sa Saligáng-Batás na itó; dátapwá, ang Pangulo ng Repúbliká ng Pilipinas ay maáring makipagkayari sa alín mang bansáng banyagà sa pagpapagamit ng mga likás na kayamanan at pagpapalakad ng mga kagamitáng-bayan, at ang násabing pakikipagkayari'y manánatili lamang hanggáng tumátagál ang Digmaan sa Lalong Malakíng Silangang-Asya.

TUNT. 8. Ang mga panlahát at tanging karapatán sa alín mang ariarian ng sino mang tao, samahán o kapisanan, sapúl nang magsimulá ang Digmaan sa Lalong Malakíng Silangang-Asya, ay áayusin at tútuusin pagkatapos ng násabing digmá.

TUNT. 9. Ang mga tadhanà ng Saligáng-Batás na itó, mátangì ang mga nasa-Pangkát na itó at yaóng mga tumútukoy sa paghahalál at katángian ng mga pinunong hálalin sa bisà ng

Saligáng-Batás na itó rin, ay di magkákabisà hanggáng di napasisinayaan ang Repúbliká ng Pilipinas.

PANGKÁT XII.—MGA TANGING TADHANÀ

TUNTUNING 1. Sa loób ng isáng taón pagkatapos ng Digmaan ng Lalong Malaking Silangang-Asya, ang Kapulungang Pambansá ay magbábatás ng isáng hálalang pangmadláng mámamayan ng mga kinatawán sa Kapulungang Pansaligáng-batás, na magtítipon sa loób ng taning na di kúkulangin sa animnapúng araw pagkatapos na silá'y mangáhalál, upáng bumalangkás at magpatibay ng isáng bagong Saligáng-Batás na magkákabisà matapos pagtibayin ng sambayanán sa pamamagitan ng isáng plebisitong idáraos sa bagay na itó. Pagkatapos ng gayóng pagpapatibay, ang Kapulungang Pambansá ay magtátadhanà pagdaka ng isáng hálalan ng mga pinunong ipinaháhalál ng bagong Saligáng-Batás at ng pagpapasinayà sa Pámahalaáng sa bisà nitó'y itátatág.

JOSE P. LAUREL

Pangulo

RAMON AVANCEÑA

Unang Pangalawáng Pangulo

JORGE B. VARGAS

Kagawad

TEOFILO SISON

Kagawad

BENIGNO S. AQUINO

Ikalawáng Pangalawáng Pangulo

ANTONIO DE LAS ALAS

Kagawad

RAFAEL R. ALUNAN

Kagawad

CLARO M. RECTO

Kagawad

JOSE YULO

Kagawad

MIGUEL UNSON

Kagawad

VICENTE MADRIGAL

Kagawad

EMILIANO T. TIRONA

Kagawad

PEDRO SABIDO

Kagawad

QUINTIN PAREDES

Kagawad

EMILIO AGUINALDO

Kagawad

CAMILO OSIAS

Kagawad

MANUEL C. BRIONES

Kagawad

MANUEL A. ROXAS

Kagawad

MELECIO ARRANZ

Kagawad

ALAOYA ALONTO SULTAN SA RAMAIN

Kagawad

Pinatútunayan ko na ang nasa-itaás na Saligáng-Batás ng Repúbliká ng Pilipinas ay tinanggáp at pinagtibay ng Lupon sa Paghahandá ng Kasarinlán ng Pilipinas sa kaniyang pulong na dinaluhán ng lahat ng Kagawad at idinaos sa Lunsód ng Maynilá, Pilipinas, nang ika-4 na araw ng Setyembre, taóng sanlibo siyam na raán apatnapú't tatló.

PROCESO E. SEBASTIAN

Kalihim Tagaganáp

**CONSTITUTION
OF THE
REPUBLIC OF THE PHILIPPINES**

ADOPTED BY THE
PREPARATORY COMMISSION FOR
PHILIPPINE INDEPENDENCE

AT THE
CITY OF MANILA, PHILIPPINES, ON THE FOURTH DAY
OF SEPTEMBER, NINETEEN HUNDRED
AND FORTY-THREE

IMT 676

147

CONSTITUTION
OF THE
REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

PREAMBLE

The Filipino people, imploring the aid of Divine Providence and desiring to lead a free national existence, do hereby proclaim their independence, and in order to establish a government that shall promote the general welfare, conserve and develop the patrimony of the Nation, and contribute to the creation of a world order based on peace, liberty, and moral justice, do ordain this Constitution.

ARTICLE I.—THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

SECTION 1. The Philippines is a republican state. The government established by this Constitution shall be known as the Republic of the Philippines.

SEC. 2. The Republic of the Philippines shall exercise sovereignty over all the national territory as at present defined by law.

ARTICLE II.—THE EXECUTIVE

SECTION 1. The Executive power shall be vested in the President of the Republic of the Philippines.

SEC. 2. The President shall be elected by a majority of all the members of the National Assembly at the place and on the date to be fixed by law.

SEC. 3. No person may be elected President unless he be a natural-born citizen of the Philippines, is forty years of age or over, and has been a resident of the Philippines for at least ten years immediately preceding the election.

SEC. 4. The President shall hold office during a term of six years and may not be re-elected for the following term.

SEC. 5. The term of the President shall end at noon on the thirtieth day of December following the expiration of six years after his election, and from such time the term of his successor shall begin. If his successor shall not have been chosen before such time, or if the President-elect shall have failed to qualify, then the outgoing President shall continue in office until his successor shall have been elected and qualified. In the event of the removal of the President from office or of his death, resignation, or inability to discharge the powers and duties of his office, the same shall devolve on the ranking Minister in the order of precedence established by law until a new President shall have been elected for the unexpired term. In the latter case, the election shall be held within sixty days after such removal, death, resignation, or inability.

SEC. 6. Before assuming the duties of his office, the President shall take the following oath or affirmation:

"I do solemnly swear (or affirm) that I will faithfully and conscientiously fulfill my duties as President of the Republic of the Philippines, preserve and defend its Constitution, execute its laws, do justice to every man, and consecrate myself to the service of the Nation. So help me God." (In case of affirmation, the last sentence will be omitted.)

SEC. 7. The President shall have an official residence and receive such compensation as may be fixed by law which shall neither be increased nor diminished during the period for which he shall have been elected, and he shall not receive within that period any other emolument from the government or any of its subdivisions or instrumentalities.

SEC. 8. The President shall have supervision and control of all the ministries, bureaus or offices, all local governments, and all other branches or instrumentalities of the Executive Department, and take care that the laws be faithfully executed.

SEC. 9. The President shall be commander-in-chief of all armed forces of the Republic of the Philippines and, whenever it becomes necessary, he may call out such armed forces to prevent or suppress lawlessness, invasion, insurrection, or rebellion. In case of invasion, insurrection, or rebellion, or imminent danger thereof, or when the public safety so requires, he may suspend the privileges of the writ of *habeas corpus*, or place the Philippines or any part thereof under martial law.

SEC. 10. The President shall appoint the Ministers and Vice-Ministers, and with the advice of his Cabinet, shall appoint ambassadors, diplomatic ministers and consuls, heads of bureaus and offices, officers of the Army from the rank of colonel, of the Navy and of the Air forces from the rank of captain or commander, provincial governors, city and municipal mayors, and all other officers of the government whose appointments are not otherwise provided for by law.

SEC. 11. There shall be a Council of State to advise the President on matters of national policy. It shall be composed

of not more than twenty members to be appointed by the President from among citizens who may have rendered distinguished service to the Nation.

SEC. 12. The President, with the concurrence of two-thirds of all the members of the National Assembly, shall have the power to declare war and make peace, and, with the concurrence of a majority of all its members, conclude treaties. He shall receive ambassadors and diplomatic ministers duly accredited to the Republic of the Philippines.

SEC. 13. The President shall have the power to grant reprieves, commutations and pardons, and remit fines and forfeitures, after conviction, for all offenses, upon such conditions and with such restrictions and limitations as he may deem proper to impose. He shall have the power to grant amnesty with the concurrence of the National Assembly.

SEC. 14. The President shall from time to time give to the National Assembly information of the state of the Nation, and recommend to its consideration such measures as he shall judge necessary and expedient.

ARTICLE III.—THE LEGISLATURE

SECTION 1. The Legislative power shall be vested in the National Assembly.

SEC. 2. The National Assembly shall be composed of the provincial governors and city mayors as members *ex-officio*, and of delegates to be elected every three years, one from each and every province and chartered city. The date and manner of their election and the method of filling vacancies shall be pre-

scribed by law, which shall not be subject to change or modification during the Greater East Asia War.

SEC. 3. No person shall be elected to the National Assembly unless he has been five years a citizen of the Philippines, and is at least thirty years of age.

SEC. 4. (1) The National Assembly shall convene in regular session once every year on a date to be fixed by law, but no regular session shall continue longer than sixty days, exclusive of Sundays. It may also be called in special session by the President, for such time as he may determine, to consider general legislation or only such subjects as he may designate.

(2) The National Assembly shall choose its Speaker, a secretary, a sergeant-at-arms, and such other officers as may be required. A majority of all the members shall constitute a quorum to do business, but a smaller number may adjourn from day to day, and may compel the attendance of absent members, in such manner and under such penalties as the National Assembly may provide.

(3) The National Assembly shall be the sole judge of the election, returns and qualifications of its elective members, and may determine the rules of its proceedings, punish its members for disorderly behavior, and, with the concurrence of two-thirds, expel a member. It shall keep a journal of its proceedings, and from time to time publish the same, excepting such parts as may in its judgment require secrecy, and the *yays* and *nays* on any question shall, at the request of one-fifth of its members present, be entered in the journal.

SEC. 5. The Speaker and members of the National Assem-

bly shall receive such compensation as may be fixed by law, exclusive of traveling expenses to and from their respective provinces or cities in attending the sessions of the National Assembly. The National Assembly shall not have the power to increase the compensation of its Speaker and its members during their term of office.

SEC. 6. The members of the National Assembly shall be privileged from arrest during their attendance at the sessions of the National Assembly, and in going to and returning from the same, except when they commit a crime in which the penalty fixed by law is death or imprisonment for more than twelve years; and for any speech or debate therein, they shall not be questioned in any other place.

SEC. 7. (1) The President shall submit within ten days of the opening of each regular session of the National Assembly a budget of receipts and expenditures which shall be the basis of the general appropriation bill.

(2) If at the termination of any fiscal year the appropriations necessary for the support of the government for the ensuing fiscal year shall not have been made, the several sums appropriated in the last appropriation bills shall be deemed to be reappropriated for the several objects and purposes therein specified, so far as the same may be done in the judgment of the President, until the general appropriation bill shall have been approved.

(3) No provision or enactment shall be embraced in the general appropriation, unless it relates specifically to some par-

particular appropriation in the bill; and any such provision or enactment shall be limited in its operation to such appropriation.

SEC. 8. The Ministers, upon their own initiative or upon the request of the National Assembly, may appear before and be heard by the National Assembly on any matter pertaining to their ministries, unless the public interest shall require otherwise and the President shall so state in writing.

SEC. 9. (1) No bill which shall have passed the National Assembly shall become a law unless approved by the President. If he approves the same, he shall sign it; but if not, he shall return it with his objections to the National Assembly, which shall enter the objections at large on its journal and may proceed to reconsider and reapprove it by a vote of two-thirds of all its members. In all such cases the votes of the National Assembly shall be determined by *yeas* and *nays* and the names of the members voting for and against shall be entered on the journal. If the President should disapprove the bill for the second time, the National Assembly may not during the same session reconsider and repass the bill. If any bill shall not be returned by the President as herein provided within twenty days (Sundays excepted) after it shall have been presented to him, the same shall become a law in like manner as if he had signed it, unless the National Assembly by adjournment prevent its return, in which case it shall become a law unless vetoed by the President within forty days after adjournment.

(2) The President shall have the power to veto any particular item or items of an appropriation, revenue or tariff bill, but the veto shall not affect the item or items to which he does

not object. When a provision of an appropriation bill affects one or more items of the same, the President cannot veto the provision without at the same time vetoing the particular item or items to which it relates.

SEC. 10. (1) No bill which may be enacted into law shall embrace more than one subject which shall be expressed in the title of the bill.

(2) No bill shall be passed or become a law unless copies thereof in its final form shall have been furnished the members at least three calendar days prior to its passage by the National Assembly, except when the President shall have certified to the necessity of its immediate enactment. Upon the last reading of a bill no amendment thereof shall be allowed; and the question upon its final passage shall be taken immediately thereafter, and the *yeas* and *nays* entered on the journal.

SEC. 11. (1) All money collected on any tax levied for a special purpose shall be treated as a special fund and paid out for such purpose only. If the purpose for which a special fund was created has been fulfilled or abandoned, the balance, if any, shall be transferred to the general funds of the government.

(2) No money shall be paid out of the Treasury except in pursuance of an appropriation made by law.

(3) No public money or property shall be appropriated, applied, or used, directly or indirectly, for the use, benefit, or support of any sect, church, denomination, sectarian institution, or system of religion, or for the use, benefit, or support of any priest, preacher, minister, or other religious teacher or dignitary as such, except when such priest, preacher, minister, or dig-

itary is assigned to the armed forces or to any penal institution, orphanage, or leprosarium.

SEC. 12 (1) The rule of taxation shall be uniform.

(2) The National Assembly may, by law, authorize the President, subject to such limitations and restrictions as it may impose, to fix, within specified limits, tariff rates, import or export quotas, and tonnage and wharfage duties.

(3) Cemeteries, churches and parsonages or convents appurtenant thereto, and all lands, buildings and improvements used exclusively for religious, charitable or educational purposes, shall be exempt from taxation.

SEC. 13. In times of war or other national emergency, the National Assembly may by law authorize the President, for a limited period and subject to such restrictions as it may prescribe, to promulgate rules and regulations to carry out a declared national policy.

SEC. 14. When the National Assembly is not in session, the President may, in cases of urgent necessity, promulgate rules and ordinances which shall have the force and effect of law until disapproved by resolution before the end of the next regular session of the National Assembly.

ARTICLE IV.—THE JUDICIARY

SECTION 1. The Judicial Power shall be vested in the Supreme Court and such inferior courts as may be established by law.

SEC. 2. The National Assembly shall have the power to define, prescribe, and apportion the jurisdiction of the various courts, but may not deprive the Supreme Court of its original

(673)

— 10 —

jurisdiction over cases affecting ambassadors, diplomatic ministers and consuls, nor of its jurisdiction to review, revise, reverse, modify, or affirm on appeal, certiorari, or writ of error, as the law or the rules of court may provide, final judgments and decrees of inferior courts in all cases in which the constitutionality of any law, ordinance, or executive order or regulation is in question, or in which the jurisdiction of any court is in issue or where only errors or questions of law are involved.

SEC. 3. Unless otherwise provided by law, the Supreme Court shall be composed of a Chief Justice and six Associate Justices.

SEC. 4. The members of the Supreme Court shall be appointed by the President with the advice of the Cabinet. All judges of inferior courts shall be appointed by the President with the advice of the Supreme Court.

SEC. 5. No person may be appointed member of the Supreme Court unless he be a citizen of the Philippines, is at least forty years of age and has been judge of a court of record or has been engaged in the practice of law in the Philippines for at least ten years.

SEC. 6. The National Assembly shall prescribe the qualifications of judges of the inferior courts but no person may be appointed judge of any such courts unless he be a citizen of the Philippines and has been admitted to the practice of law in the Philippines.

SEC. 7. The members of the Supreme Court and judges of inferior courts shall hold office during good behavior, until they become incapacitated to discharge the duties of their office. They

IMT 676

137

shall receive such compensation as may be fixed by law, which may not be diminished during their continuance in office except in case of a general revision of salaries of all officials and employees of the government.

SEC. 8. The conclusions of the Supreme Court in any case submitted to it for decision shall be reached in consultation before the case is assigned to a Justice for the writing of opinion of the court. Any Justice dissenting from a decision shall state the reasons for his dissent.

SEC. 9. No law or executive order, ordinance or regulation may be declared unconstitutional without the unanimous vote of all the members of the Supreme Court.

SEC. 10. No decision shall be rendered by any court of record without expressing therein clearly and distinctly the facts and the law on which it is based.

SEC. 11. The Supreme Court shall have the power to promulgate rules concerning pleading, practice and procedure in all courts, and the admission to the practice of law. Said rules shall be uniform for all courts of the same grade and shall not diminish, increase or modify substantive rights. All existing laws on pleading, practice and procedure are subject to alteration and modification by the Supreme Court.

ARTICLE V.—IMPEACHMENT

SECTION 1. The President and the Justices of the Supreme Court shall be removed from office on impeachment for, and conviction of, culpable violation of the Constitution, treason, bribery, or other high crimes.

SEC. 2. The National Assembly, by a vote of two-thirds of all its members, shall have the sole power of impeachment.

SEC. 3. The Supreme Court shall have the sole power to try all impeachments. No person shall be convicted without the concurrence of three-fourths of all the Justices of the Supreme Court.

SEC. 4. Judgment in cases of impeachment shall not extend further than to removal from office and disqualification to hold and enjoy any office of honor, trust, or profit under the government of the Republic of the Philippines, but the party convicted shall nevertheless be liable and subject to prosecution, trial, and punishment, according to law.

ARTICLE VI.—CITIZENSHIP

SECTION 1. The following are citizens of the Philippines:

(1) Those who are citizens of the Philippines at the time of the adoption of this Constitution and their descendants.

(2) Those who are naturalized in accordance with law.

SEC. 2. Philippine citizenship may be lost or reacquired in the manner provided by law.

ARTICLE VII.—DUTIES AND RIGHTS OF THE CITIZEN

SECTION 1. It is the duty of every citizen to render personal military and civil service as may be required by law, to pay taxes and public charges, and to engage in a useful calling, occupation or profession.

SEC. 2. No person shall be deprived of life, liberty or prop-

erty without due process of law, nor shall any person be denied the equal protection of the laws.

SEC. 3. No law shall be made respecting an establishment of religion or prohibiting the free exercise thereof, and no religious test shall be required for the exercise of civil or political rights.

SEC. 4. No law impairing the obligation of contracts shall be passed.

SEC. 5. No *ex post facto* law shall be enacted.

SEC. 6. No person shall be imprisoned for debt.

SEC. 7. No involuntary servitude in any form shall exist except as a punishment for crime whereof the party shall have been duly convicted.

SEC. 8. The privilege of the writ of *habeas corpus* shall not be suspended except in cases of invasion, insurrection, rebellion or when the public safety so requires.

SEC. 9. Private property shall not be taken for public use without just compensation.

SEC. 10. Free access to the courts or administrative tribunals shall not be denied to any person by reason of poverty.

SEC. 11. Subject to such limitations as may be imposed by law in the interest of peace, morals, health, safety or public security:

(1) The right to be secure against unreasonable searches and seizures shall not be violated.

(2) The privacy of communication and correspondence shall not be invaded.

(673)

— 14 —

(3) The right to form associations or societies for purposes not contrary to law shall not be infringed.

(4) The free enjoyment and practice of religious profession and worship, without discrimination or preference, shall not be curtailed.

(5) The liberty of abode and of changing the same within the limits prescribed by law shall not be impaired.

(6) The freedom of speech, or of the press, or the right of the people peaceably to assemble and petition the government for redress of grievances, shall not be abridged.

ARTICLE VIII.—CONSERVATION AND UTILIZATION
OF NATURAL RESOURCES

SECTION 1. All agricultural, timber, and mineral lands of the public domain, waters, minerals, coal, petroleum, and other mineral oils, all sources of potential energy, and other natural resources of the Philippines belong to the State, and their disposition, exploitation, development, or utilization shall be limited to citizens of the Philippines, or to corporations or associations at least sixty *per centum* of the capital of which is owned by such citizens, subject to any existing right, grant, lease, or concession at the time of the inauguration of the government established under this Constitution. Natural resources, with the exception of public agricultural land, shall not be alienated, and no license, concession, or lease for the exploitation, development, or utilization of any of the natural resources shall be granted for a period exceeding twenty-five years, renewable for another twenty-five years, except as to water rights for irriga-

tion, water supply, fisheries, or industrial uses other than the development of water power, in which cases beneficial use may be the measure and the limit of the grant.

SEC. 2. No private corporation or association may acquire, lease, or hold public agricultural lands in excess of one thousand and twenty-four hectares, nor may any individual acquire such lands by purchase in excess of one hundred and forty-four hectares, or by lease in excess of one thousand and twenty-four hectares, or by homestead in excess of twenty-four hectares. Lands adapted to grazing, not exceeding two thousand hectares, may be leased to an individual, private corporation, or association.

SEC. 3. The National Assembly may determine by law the size of private agricultural land which individuals, corporations, or associations may acquire and hold, subject to rights existing prior to the enactment of such law.

SEC. 4. The National Assembly may authorize, upon payment of just compensation, the expropriation of lands to be subdivided into small lots and conveyed at cost to individuals.

SEC. 5. No private agricultural land shall be transferred or assigned except to individuals, corporations, or associations qualified to acquire or hold lands of the public domain in the Philippines, or to persons entitled by law to inherit in case of intestate succession.

ARTICLE IX.—GENERAL PROVISIONS

SECTION 1. The flag of the Republic of the Philippines shall

(678)

— 16 —

be red, white, and blue, with a sun and three stars, as consecrated and honored by the Filipino people.

SEC. 2. The government shall take steps toward the development and propagation of Tagalog as the national language.

SEC. 3. There shall be a General Auditing Office to examine, audit and settle all accounts pertaining to the revenues, receipts, expenditures of funds and properties of the government, its subdivisions and instrumentalities, as well as of such persons or institutions as may be provided by law.

SEC. 4. A Civil Service embracing all branches and subdivisions of the government shall be provided by law. Appointments in the Civil Service, except as to those which are policy-determining, primarily confidential or highly technical in nature, shall be made only according to merit and fitness to be determined as far as practicable by competitive examination.

SEC. 5. All public officers and members of the armed forces shall take an oath to support and defend the Constitution.

SEC. 6. No public officer or employee shall receive additional or double compensation unless specifically authorized by law.

SEC. 7. Public officers and employees shall not engage in the practice of any profession during their continuance in office, nor shall they, directly or indirectly, intervene in the management or control of any private enterprise which in any way may be affected by the functions of their office, or be financially interested in any contract with the government, or any subdivision or instrumentality thereof.

SEC. 8. The promotion of social justice to insure the well-

being and economic security of all the people shall be the concern of the State.

SEC. 9. The State shall promote scientific research and invention. Arts and letters shall be under its patronage. The exclusive right to writings and inventions shall be secured to authors and inventors for a limited period.

SEC. 10. All educational institutions shall be under the supervision of and subject to regulation by the State. The government shall establish and maintain a complete and adequate system of national education, and shall provide at least free public elementary instruction, and citizenship training to adult citizens. All schools, colleges, and universities shall aim to develop moral character, personal and collective discipline, civic conscience, and vocational skill, secure social efficiency, and teach the duties of citizenship. Optional religious instruction shall be maintained in the public schools as now authorized by law. The State shall create scholarships in arts, science, and letters for specially gifted citizens.

SEC. 11. The State shall afford protection to labor, especially to working women and minors, and shall regulate the relations between landowner and tenant, and between labor and capital in industry and in agriculture. The State may provide for compulsory arbitration.

SEC. 12. The State may, in the interest of national welfare or defense, establish and operate industries and means of transportation and communication, and, upon payment of just compensation, transfer to public ownership utilities and other private enterprises to be operated by the government.

SEC. 13. No franchise, certificate, or any other form of authorization for the operation of a public utility shall be granted except to citizens of the Philippines or to corporations or other entities organized under the laws of the Philippines, sixty *per centum* of the capital of which is owned by citizens of the Philippines, nor shall such franchise, certificate, or authorization be exclusive in character or for a longer period than fifty years. No franchise or right shall be granted to any individual, firm or corporation, except under the condition that it shall be subject to amendment, alteration, or repeal by the National Assembly when the public interest so requires.

SEC. 14. The National Assembly shall not, except by general law, provide for the formation, organization, or regulation of private corporations, unless such corporations are owned or controlled by the government or any subdivision or instrumentality thereof.

ARTICLE X.—AMENDMENTS

SECTION 1. The National Assembly, by a vote of two-thirds of all its members, may propose amendments to this Constitution, but such amendments shall not be valid as part of the Constitution unless approved by the people at a plebiscite or convention especially called for that purpose and on the date and under conditions to be prescribed by law.

ARTICLE XI.—TRANSITORY PROVISIONS

SECTION 1. This Constitution shall be ratified by the people at a plebiscite or convention especially called for that purpose.

The manner of holding such plebiscite or convention shall be provided by law.

SEC. 2. The first National Assembly shall convene at the place and on the date fixed by law, and immediately after its organization shall elect the President of the Republic of the Philippines.

SEC. 3. The existing executive departments of the Philippine Executive Commission shall continue as Ministries of the Republic until the National Assembly shall by law provide otherwise.

SEC. 4. All laws of the Philippines shall continue in force until the inauguration of the Republic; thereafter, such laws shall remain operative unless inconsistent with this Constitution, until amended, altered, modified or repealed by the National Assembly, and all references in such laws to the government or officials of the Philippines or of the Philippine Executive Commission shall be construed, in so far as applicable, to refer to the government and corresponding officials under the Republic.

SEC. 5. All courts existing at the time of the adoption of this Constitution shall continue and exercise their jurisdiction, except in so far as it may be inconsistent with the provisions of this Constitution, until otherwise provided by law in accordance with this Constitution; but all cases, civil and criminal, pending in said courts shall be heard, tried and determined under the laws then in force.

SEC. 6. All officers and employees of the government under the Philippine Executive Commission shall continue in office

until the National Assembly shall provide otherwise; but all officers whose appointments are by this Constitution vested in the President shall vacate their respective offices upon the appointment and qualification of their successors.

SEC. 7. The prohibitions and limitations provided for in this Constitution, notwithstanding, the President of the Republic of the Philippines may enter into an agreement with any foreign nation for the utilization of natural resources and the operation of public utilities, which agreement shall expire upon the termination of the Greater East Asia War.

SEC. 8. All property rights and privileges acquired by any person, entity or corporation, since the outbreak of the Greater East Asia War, shall be subject to adjustment and settlement upon the termination of the said war.

SEC. 9. The provisions of this Constitution, except those contained in this Article and those which refer to the election and qualification of officers to be elected under the Constitution, shall not take effect until the inauguration of the Republic of the Philippines.

ARTICLE XII.—SPECIAL PROVISION

SECTION 1. Within one year after the termination of the Greater East Asia War, the National Assembly shall by law provide for the election by popular suffrage of delegates to a Constitutional Convention, which shall meet not later than sixty days after their election in order to formulate and adopt a new Constitution which shall become effective upon its approval by the people at a plebiscite to be held for the purpose. After such

approval the National Assembly shall forthwith provide for the election of the officers under the new Constitution and the inauguration of the government established thereunder.

JOSE P. LAUREL

President

RAMON AVANCEÑA

First Vice-President

BENIGNO S. AQUINO

Second Vice-President

JORGE B. VARGAS

Member

ANTONIO DE LAS ALAS

Member

TEOFILO SISON

Member

RAFAEL R. ALUNAN

Member

CLARO M. RECTO

Member

QUINTIN PAREDES

Member

JOSE YULO

Member

EMILIO AGUINALDO

Member

MIGUEL UNSON

Member

CAMILO OSIAS

Member

VICENTE MADRIGAL

Member

MANUEL C. BRIONES

Member

EMILIANO T. TIRONA

Member

MANUEL A. ROXAS

Member

PEDRO SABIDO

Member

MELECIO ARRANZ

Member

ALAOYA ALONTO SULTAN SA RAMAIN

Member

(673)

— 22 —

I hereby certify that the foregoing Constitution of the Republic of the Philippines was adopted by the Preparatory Commission for Philippine Independence in its plenary session held at the City of Manila, Philippines, on the 4th day of September, nineteen hundred and forty-three.

PROCESO E. SEBASTIAN
Executive Secretary

IMT 676

125

外甲五一

昭和十八年十月 日

内閣書記官長

内閣書記官



六十三年



内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

遞信大臣

岸國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大藏國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後藤國務大臣

別紙外務大臣請議日本國、フィリピン、國間
同盟條約及附屬了解事項公布方請議ノ件

三

去 時 司

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
條約公布ノコトニ閣議決定セラレ可然ト認ム

條約公布案

呈案附箋ノ通

極秘

法制局

法制局外第九號
昭和十八年十月十九日

條一極秘第四二八號

昭和十八年十月十八日

外務大臣 重光

內閣總理大臣 東條英機 殿

日本國「フィリピン」國間同盟條約及附屬了解
事項公布方請議ノ件

十月十四日「マニラ」ニ於テ署名調印セラレタル日本國「フィリピン」國間同盟條約近ク兩國ニ於テ批准ノ運ト相成ルベク候ニ付テハ右兩國ノ批准有之タル節ハ附屬了解事項ト共ニ至急官報ヲ以テ公布方可然御取計相成度別紙公布案相添へ此段及請議候也



主任者、條約局第一課長

外甲五

外務省

追テ「フィリピン」國ノ批准アリタル節ハ其ノ旨直ニ通報ニ及ブ
ベク候

尙公布案文書左ノ通添附致置候

- | | | |
|---|------------------|----|
| 一 | 上諭文案 | 二部 |
| 二 | 條約日本文(附屬了解事項ヲ含ム) | 五部 |
| 三 | 御批准文 | 二部 |

外務省

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ
帝國全權委員ガ「フィリピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル
日本國「フィリピン」國間同盟條約ヲ批准シ茲ニ附屬文書ト
共ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十八年十月二十日

內閣總理大臣

外務大臣

陸軍大臣

外務省

條約第十二號

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラローロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

村 田 省 藏(印)

クラーク、エメ、レクト(印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル

大日本帝國天皇（御名）此ノ書ヲ見ル有兼ニ宣示ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フィ

リピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フィリピン」

國間同盟條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百三年昭和十八年十月二十日東京宮城

ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣 重光 葵

外務省

供覽

秘

閣議

條一祕第四二九號

昭和十八年十月十九日

外務次官 松本 俊

内閣書記官長 星野直樹 殿

内閣書記官 稲田

日本國「フィリピン」國間同盟條約及附屬
了解事項公布方請議ノ件

本件ニ關シテハ本月十八日附條一極祕第四二八號ヲ以テ重光外務
大臣ヨリ東條内閣總理大臣宛申進置ノ次第アリタル處今般在「マ
ニラ」村田大使ヨリ本月十八日「フィリピン」國ニ於テ批准ヲ了
シタル旨電報アリタルニ付右申進ズ



外甲五一屬

外務省

日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項

條約第二條ニ付

同條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス

「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國
ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

村 田 省 藏

クラーク、エメ、レント

濟



日本國中華民國間同盟條約締結及

關係公文交換ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十月二十三日

內閣總理大臣東條英機



外田第五二號

起 昭和十八年十月

閣議 昭和十八年十月十三日 決定 昭和十八年十月十三日 施行

昭和十八年十月十三日 附令

內閣總理大臣



內閣書記官長

之 內閣書記官

外務大臣

陸

海軍大臣

五

商工大臣



大東亞大臣

表

內務大臣

海

司法大臣

子

遞信大臣

表

岸國務大臣

表

大藏大臣

興

文部大臣

血

鐵道大臣

表

大藏國務大臣

表

陸軍大臣



農林大臣

五

厚生大臣

表

陸軍國務大臣



日本國中華民國間同盟條約締結及關

Faint background text and stamps, including '日本國中華民國間同盟條約締結及關' and various official seals.

係公文交換ノ件
右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付
同院上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ然
ルベシ

指令案

日本國中華民國間同盟條約締結及
關係公文交換ノ件上奏ノ通裁可ヲ
經タリ

臣等日本國中華民國間同盟條約締結及關係公文交換ノ件諮詢ノ命ヲ恪ニ本月二十三日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月二十三日

樞密院議長臣

原

嘉道

日本國中華民國間同盟條約

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ
兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界
全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通
協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ
各般ニ互リ互助救護ノ手段ヲ講ズベシ

第二條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スベシ

第三條

日本國及中華民國ハ互惠ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ效力ヲ失フモノトス

第六條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セララルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日 日即チ中華民國 年 月 日 二於テ日

本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

附屬議定書

本日日本國中華民國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

日本國ハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國領域内ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スベキコトヲ約ス

日本國ハ北清事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄ス

第二條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和 年 月

日即チ中華民國

年 月

日

ニ於テ日

本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

三

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラルベシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレシコトヲ希望致候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國

年 月

日

ニ於テ